

建築士
おおた
新年号



Ⓐ 社団法人 大分県建築士会

2005 NO92

CONTENTS

1. ニュース採録・ニュース再録	
2. 特集「専攻建築士」誕生！	
4. 第47回建築士会 全国大会報告	大分支部 宮崎 敏信
6. 第18回サマーセミナーin宇佐	宇佐支部 渡邊 賢一
7. おしらせ	事務局
8. 連載「福祉と住宅改修」NO. 1	津久見支部 濱野 一明、大村 正壽、金只 昌平
10. 個人的図書紹介 Vol. 7	臼杵支部 笠木 忠昭
15. シリーズ 登録文化財NO.13 岩尾家住宅	日田支部
16. MY WORK	津久見支部 臼杵支部 別府支部
18. 会員紹介	中津支部 竹田支部
20. 特集「子ども大工道場」宇佐・竹田支部	身深 文廣、NPO法人「たけたまちなみ会」
22. インフォメーション	
~ 高田支部 ~	成重 憲一
~ 大分支部 ~	坪井 敬行
~ 津久見支部 ~	金只 昌平
~ 竹田支部 ~	永井 剛
~ 日田支部 ~	吉田 博嗣
~ 中津支部 ~	桜田 康男
29. 第19回豊の国木造建築賞	
30. 行政だより	大分県
32. 第25回ソフトボール大会	大分支部 中村 勝
34. 事務局だより	事務局
36. 新会員紹介	事務局
37. 編集後記	



TIKURAKU 竹 楽

~竹 / 音 / 光・共鳴~

「たけた竹灯籠」は大分県竹田市の十六羅漢エリア、武家屋敷エリアの歴史の道界隈に20,000本が備え付けられます。期間中、竹田の食を味わえる屋台村や「街角コンサート」などが開催されます。

晩秋の竹田の宵。幽玄のひとときを楽しむことができます。荒廃する竹林の保全を目的に、2000人のボランティアによる市民参加型、竹活用による環境循環型のイベントです。

ニュース探録 ニュース再録

■ 自然、人を思いついのすみか

県庁OB野上さん夫妻が建てる

大分市敷戸東町、一級建築士の野上和彦さん(63)と清子さん(56)夫妻が、環境と老後の生活の快適さにこだわった住宅を建てた。県産材をはじめ自然素材を多用。玄関をなくし、スロープ付きの縁側に入出口を設けるなど、さまざまなバリアフリーの工夫を盛り込んだ「ついのすみか」。

(大分合同新聞 2004 4/22)

■ 旧浜田温泉復元へ6500万円寄付 匿名女性が別府市に

旧浜田温泉の復元に役立てて一。別府市は二十七日、今年三月に解体された旧浜田温泉(同市亀川浜田町)について、同市内に住む匿名女性から「現地での復元費用に充てて」と、六千五百万円の寄付を受けたことを明らかにした。(西日本新聞 2004 4/28)

■ 伊勢神宮、遷宮の準備を始める

伊勢神宮が、社殿を二十年に一度造り替える式年遷宮に向け動き始めた。すでに天皇の「御聴許(ごちょうきょ)」を得ており、夏までに各界有識者による遷宮準備委員会を立ち上げる。用材を伐採する山の神を祭る来年五月の「山口祭」を皮切りに、二〇一三年十月の遷御まで諸行事が執り行われる。

(日本経済新聞 2004 5/11)

■ 木造4階建てOK ツーバイフォー工法条件

4階建て木造住宅が今夏から建てられることになった。業界団体の日本ツーバイフォー建築協会が国土交通省から、ツーバイフォー工法であれば木造4階建てが可能になる「耐火構造認定」を取得したため。

(朝日新聞 2004 5/31)

■ まちづくりで国交大臣表彰 別府駅前通り商店街振興組合

長年にわたるまちづくり活動が認められ、別府市の別府駅前通り商店街振興組合(林道弘理事長・72店舗)が国土交通大臣表彰を受けた。全国で59団体・個人を表彰。県内では同組合だけ。

(大分合同新聞 2004 6/3)

■ 浜田温泉 復元予算を提案

寄付と同額の6500万円 別府市8月にも着工

別府市の浜田博市長は七日、解体された市営浜田温泉の旧施設を、年度内にも現在地で復元する考えを明らかにした。六月議会に関連の予算を提案する。

(読売新聞 2004 6/8)

■ 豆田の町並み保存報告書が完成「重伝建」選定へ前進

日田市が作成していた豆田の町並み保存対策調査報告書が完成した。国の重要伝統的建造物群(重伝建)保存地区の基礎資料となるだけに、本年度中の国選定に大きく前進した。十七日、保存計画を策定する審議会(浜田昌澄会長、十九人)も発足。第一回会議を市役所で開き、保存地区の範囲と名称を決めた。

(大分合同新聞 2004 6/20)

■ 日出の襟江亭 崩壊防止作業始まる

日出町大神港区(深江)に残る日出藩の御茶屋「襟江亭(きんこうてい)」の保存活動に取り組んでいる

県建築士会別府支部と、「深江の街創りを考える会」は十日、崩壊を防ぐため、屋根瓦を取り外して柱などにかかる負荷を減らす作業を始めた。

(大分合同新聞 2004 7/11)

■ 来年の横浜トリエンナーレ ディレクターに磯崎氏

来年九~十二月、横浜市の山下ふ頭などで開かれる第二回横浜トリエンナーレのディレクターに、建築家の磯崎新氏(72)が選ばれた。国際交流基金、同市などで作る同トリエンナーレ組織委員会が発表した。

(読売新聞 2004 7/29)

■ 緒方中 作品選奨に 設計者の重村教授、町長に銘板

緒方中が、日本建築学会の「2004年作品選奨」に選ばれ、設計した重村力(つとむ)・神戸大学教授(58)が、山中博町長に銘板を届けた。

(読売新聞 2004 8/3)

■ 中津城 近世城郭では九州最古級 瓦葺櫓の礎石群確認

中津市教委はこのほど、中津城の内堀と石垣の発掘・復元調査で近世城郭(16世紀後半、安土桃山時代)としては、九州最古級の「瓦葺櫓(かわらぶきやぐら)」の礎石群を確認したと発表した。

(毎日新聞 2004 8/11)

■ 臼杵市の不燃物処理センター 県内初の建屋付き

臼杵市が、建屋付き一般廃棄物最終処分場「市不燃物処理センター」の建設を久木小野地区で進めている。建屋付き処分場は県内初で、規模としては全国最大という。地下水汚染への心配が少ないうえ、ごみが野ざらしにされず景観保全の役割も期待されている。九月一日から使用を始める。

(西日本新聞 2004 8/14)

■ 大分市チャームクリエイト賞

自然に配慮「こもれびトイレ」

公共建築物の設計アイデアを市民から募る「大分市チャームクリエイト賞」の表彰式が、同市役所で行われ、大賞に選ばれた日本文理大学一年生、松川洋輔さん(22)ら入賞者に、釘宮馨市長から表彰状が手渡された。

(西日本新聞 2004 9/4)

■ 毛利空桑旧宅台風で壁崩落

台風16、18号で、大分市鶴崎にある県指定史跡「毛利空桑旧邸」のしっくい壁が崩落するなどの被害が出ている。

(大分合同新聞 2004 9/9)

■ 「私の得意はここ」 領域を明示 専攻建築士

県内に六十八人の「専攻建築士」が誕生した。日本建築士会連合会の方針に基づき、県建築士会が自主的に導入した専攻建築士制度による資格で、“その道のプロ”として消費者にそれぞれの得意領域を明示するのが狙い。

(大分合同新聞 2004 9/16)

■ 日田市豆田 国の保存地区に 県内初 歴史的町並み評価

国の文化審議会(高階秀爾会長)は十五日、江戸期の商家の町並みがよく残る日田市豆田地区を、新に重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)に選定するよう中山成彬文部科学大臣に答申した。

(大分合同新聞 2004 10/16)

特集

「専攻建築士」誕生！

(社)大分県建築士会では、平成16年3月に専攻建築士の申請を受付け、5月14日の(社)大分県建築士会の審査委員会を経て、8月23日に開催された(社)日本建築士会連合会の認定評議会にて認定され、68名の「専攻建築士」が誕生しました。

その68名の専攻建築士を紹介いたします。

氏名	支部	専攻
安部 一夫	高 田	設計・生産
安藤 和弘	〃	生産・棟梁
後藤 憲二	〃	まちづくり・設計
土井美千廣	〃	設計・生産
松浦 修	〃	設計
浅野 正信	別 府	生産・棟梁
竹長 敏夫	〃	まちづくり・法令
田邊 文夫	〃	設計
濱田 正造	〃	設計・構造
松葉 俊郎	〃	設計・生産
赤松 成	大 分	設計
阿部 知光	〃	構造
石井 鏡成	〃	まちづくり・設計
石井 伸一	〃	生産
井上 道博	〃	棟梁
今永 和浩	〃	設計
岡崎 光輝	〃	設計
小野 吉弘	〃	設計
海木 征和	〃	設計
北 一郎	〃	設計
工藤 伸二	〃	棟梁
児島 亨	〃	構造
後藤 洋一	〃	設計・構造
首藤 俊二	〃	生産
高 彰宏	〃	設計
高 武彦	〃	設計
高木 克明	〃	設計
常廣 竜也	〃	設計
中川 敦	〃	構造
仲摩 和雄	〃	設計
畑木 政則	〃	設計
開 静子	〃	法令
藤井 秀明	〃	設計
松井 聡生	〃	設計

氏名	支部	専攻
三浦 淳一	大 分	設計・生産
三原 学	〃	設計
宮田 津義	〃	棟梁
村松 幸彦	〃	まちづくり
山本 哲	〃	設計
山本 伸二	〃	構造・法令
芳山 憲祐	〃	設計・法令
渡邊 一美	〃	生産
常廣 俊治	〃	構造
小野 睦彦	〃	設計
河野 浩二	〃	構造
小島 哲夫	〃	設計
行野 富男	〃	設計・生産
中道 正	〃	設計
陶山 省二	〃	設計
井上 一則	佐 伯	設計
岩尾 忠幸	〃	生産
小川 稔浩	〃	設計
風戸 彰	〃	まちづくり
川合 竜二	〃	設計
志賀 智昭	〃	設計
増尾 文義	〃	生産
岡部 達巳	三 重	設計
工藤 光彦	〃	棟梁
中村 正博	〃	設計
今川 幸一	竹 田	生産
笠原 健彦	日 田	棟梁
片岡 佳子	〃	設計
養父 信義	〃	まちづくり・棟梁
栲田 康男	中 津	設計
是本 正昭	〃	設計・法令
田代 幸一	〃	設計
室 勝昭	〃	設計
山本 辰雄	宇 佐	設計

専攻建築士登録希望の方へ

建築士資格取得後15年を超える方は、CPDの単位を取得しなくても実務実績があれば申請できます。15年以下の方はCPDの取得50単位が必要になります。

16年度は、1月4日～1月31日まで専攻建築士の申請を受け付けています。

(詳しくは12月上旬に配布しましたパンフレットを参照ください。)

大分合同新聞(夕刊)掲載 2004年9月16日

領域を明示

県内に計六十八人の「専攻建築士」が誕生した。日本建築士会連合会の方針に基づき、県建築士会が自主的に導入した専攻建築士制度による資格で、その道のプロとして消費者それぞれに得意領域を明示するのが狙い。導入は全国の新潟県で五番目。県建築士会は今日一日、一期生に登録証を交付し、「特に勉強し、信頼できる建築士です」とアピールしている。

「安心して住める家を、建築士会は二〇〇三年一建てたい」というのが納月からCPD制度を消費者の願いだが、助水が入。現在、会員千七百九十分で回廊りし、十七人のうち五百七十七人調査不足のため地域が沈が参加している。

むなく、欠陥住宅もある。CPD制度は各種講習のが現状、大分市内の連合会や研修会に参加する建築士の一人は「消費者がと、一六単位がもらえ思えない部分で、手を放る仕組み。五年間の研修ケースもある。建築士・実務で計百五十二百は倫理綱が求められる上、五十単位を取り、県レベルに、それぞれ得手不得手の審査委員会、日本建築士会連合会、消費者は、建築士会連合会の認定評価に頼めばいいのかが分る。会の審査にパスすると、りにくかった」と制度専攻建築士として認めら入の背景を説明する。

専攻建築士制度は、進して単位の種別があり、網羅力開発(CPD)制、ペダランは実務経験が度とセットになってお重層された。

り、建築士に特に勉強す。専攻建築士の専攻領域することを求めている。県は「まちづくりの設計」

「私の得意はここ」

専攻建築士

構造(環境設備)生産(県内ではCPD制度を理りようの法令)の七利用して勉強するため、つ。大分県は二領域まで、新たに建築士四十九人が認定される。「建築士と県建築士会に入るといとしての領域を決めること。」

「まちづくり専攻建築士」の認定を受けた村松も、いい制度だと思つ。は専攻建築士を大いに活かすことで、責任の明確化、幸彦さん(大分市)会長の岩瀬八洲夫さん用してほしい一話してを自負している。

一期生68人が誕生

「消費者に安心与えます」



専攻建築士の登録証を示す県建築士会の岩瀬八洲夫(写真上)と勉強する建築士たち(写真下) 大分市



建築士 建築士法に定められた建築士 一級、二級、木造の各建築士がある。県内の建築士は約九千人とみられる。日本建築士会連合会は新しい「建築士」としての幅広い基礎的素養の高い専攻建築士の必要性を指摘している。

県と協力が深まり、いいを持ってもらいたい。非割増になる。建築士と合同も合入して、自分消費者にとってを磨いてほしい。消費者

(大分合同新聞提供)

第47回 建築士会

全国大会報告

舌検隊 番外編 和歌山・大阪編

大分支部 宮崎 敏信

10月22日～23日、和歌山市で第47回建築士会全国大会が開催され、3年連続で参加し、楽しく“舌検”してきた。

22日早朝5時40分に自宅を出発し、7時に空港に着く。JTBの鏝さんより行程表・航空券を受領する。志賀、沖本、首藤氏ら例年参加の顔なじみばかりで心強い。天気も先の台風を忘れるような上天気となる。1時間のフライトで大阪空港着。空港ロビーにバスガイドさんが迎えに来てくれ小型バスに乗り込む。

阪和自動車道で一気に和歌山市内着。待望のコンビニでアルコールを買い込む会員も多かった。先ず、紀三井寺を見物する。265段の石段を下から見上げると尻込みをしたくなるような急段だ。

昼食は、市内の「勝浦」で“海鮮せいろ蒸し”を頂く。魚介類を蒸したものを薬味を入れたタレで頂くようになっており3段のセイロになっている。先ず、鯛の切り身を頂く、次に豆腐にアナゴを乗せた物、ミル貝等で最後にモヤシに豚肉を乗せたものだった。見本のパンフレットではボリュームがありそうだったが、4人でのセットなのでほんの一口だ。物足りないがしかたなし？。味もいまいちだった。



会場（ビッグホール）周辺がラッシュで大会式典にやっと間に合う。（大会詳細は「建築士」参照）各県紹介では、別府支部の浅野氏が日出の“襟江亭”を紹介し、絵葉書の販売をPRした。会場入口で販売し各県の会員さんが買い求めていた。



式典が終わったが、バスが来ず待った挙げく、すごいラッシュで会場を出るのに30分かかかる。今夜の宿は勝浦温泉で和歌山から“4時間以上かかる”でウンザリする。途中コンビニで日本酒とスルメ・チーズ等つまみを仕入れる。バスが小さいので揺れが大きく酔いも早い。別府組もいい気分になっていた。一杯飲みながら阪和自動車道を南下して南部まで一気に来たが、白浜付近でノロノロ運転となり、外も暗くなる。ちょっと年増のガイドさんが一生懸命沿道のガイドをしてくれ少し気が紛れる。でも、半分は眠っていた。すさみ町・串本と通過し8時半ようやく紀伊勝浦に着く。船で「ホテル浦島」へ渡る。島全部がホテルで部屋数が五百を越えている由。小さな町の人口を泊られる大きさだ。時間が遅く（9時前）、温泉にも入らず宴会となる。ビールで乾杯した後焼酎を注文したが“いいちこ”しか無い”で地酒の“太平洋”を飲む。マアママの味だ。中居さんが気の毒になりピッチを上げて飲む。料理には満足出来た。

早めに切り上げ、岩瀬会長、沖本副会長、らとお目当ての“忘帰洞”に入る。太平洋の波を眺め、波濤を聞きながら硫黄泉に浸かる。旅の疲れが洗い流されて行く感じがする。“忘帰洞”は“お殿様が城に帰るのを忘れるくらい”いい洞窟風呂の言い伝えがあるようだ。飲んで火照った身体に潮風が心地よかった。





23日(土曜) 早朝5時に起きて、ホテル玄関前をジョグする。昨夜は早めに切り上げたので体調は良い。3Km程走って今朝も“忘帰洞”に入りサッパリする。6時前なのに入浴客で一杯だった。出発が7時15分と早いため、朝食を6時30分から取るが、7時前なのに広大な食堂が満員になる。皆、出立が早いのだろう。バイキングで和食とし、2杯目はおかゆにした。焼き物、煮物にフルーツ、ジュース、ヨーグルトで仕上げる。

玄関前で記念撮影し船でホテルを後にする。今日最初の見学地“那智の滝”へと向かう。今日も最高の天気になり気持ちいい。113mから落ちる滝は雨が多かったので素晴らしかった。早く着き、我々が一番乗りでゆっくり見物できた。次に1時間かかり“熊野本宮大社”を見学する。



“襟江亭”の記事が23日大分合同新聞朝刊に載ったそうで、別府組がFAXを贈ってもらい大騒ぎとなる。このため別府組は朝から“乾杯”の賑やかさだった。

龍神ドライブインで弁当となる。天気がいいので屋外で遠足気分だ。

龍神・高野スカイラインで高野山に向かう。山頂を縫うように走っており素晴らしい景観だった。この風景を見ただけで“来た甲斐があった”気分だ。高野山も行楽シーズンの土曜日で大賑わいだった。奥の院を

ちょっとだけ見て、岩瀬会長と共に、一行と別れ大阪に向かう。ケーブルカーで極楽橋に降り、ここから“特急こうや”で新今宮へ。橋本駅までは特急と思えないゆっくりペースで眠くなってくる。ホテルで汗を流し同級会場に急ぐ。玉造駅前の“大枡”(だいます)で大阪・名古屋の同級生8人で“ミニ同級会”を開いた。名古屋のA君が新潟の銘酒“久保田・万寿”を持参し冷やで頂く。さすがに美味しく大満足した。松茸の土瓶蒸し・鰯のしゃぶ鍋が絶品で酒が奨む。お互い定年になり第二の職場で頑張っている者が多い。



楽しく飲んでいたら“別府組”から連絡があり飛び入り参加となった。美女二人を連れて来て、座がぱつと明るくなり大いに盛り上がった。

4時間飲んでホテルへ帰り、再び岩瀬会長の部屋で飲み直す。12時半にやっとお開きとなりホっとする。



24日、朝、軽い二日酔いであつたが、日本酒を相当飲んだ割にはダメージが小さくホットする。大阪空港で朝食を取り、10時半無事帰県する。来年は愛知万博も絡め6月10日に名古屋で開催されることが決まっている。来年も参加しようと思っている。

(大分県企業局工務課勤務)

第18回「サマーセミナー in 宇佐」

宇佐戯
美味し

神輿の里

宇佐支部 渡邊 賢一

先般、当地宇佐において行われました「サマーセミナーin宇佐」への多数のご参加、まことにありがとうございました。主催者も参加者もみんなで楽しめるサマーセミナーを！と、がんばってみました。9年ぶりの開催に、当時の「勘」は当てにできないから…と早くから準備を始めたつもりでしたが……。案の定当日もバタバタしてしまっ、お越しいただいた皆様にご迷惑をおかけしたと反省しております。楽しい写真がたくさんありましたので、参加のお礼と報告を兼ねてお届けします。

いざ散策へ



改修計画をすすめる「横町通り」



宇佐銘菓・親玉本舗にて～
物欲しげな見学者に高田支部の後藤さんが
たまらず差し入れ。優しい方です。



桜ヶ岡神社を参拝



虹ができました。



本願寺東別院の山門にさつ、サルが…！
あ、いえこれまた我らが見学者ご一行で
した。



散策コースご案内最後の
東別院山門を見上げて、思わず「ふう～」

さ、・・・懇親会場です！



開会前のロビー。
ええ～、まだのんびりしてま
すね～。



宇佐が誇る三和酒類さんで造
られる焼酎～ワインを中心に
テイastingバトル！
単なる大騒ぎで終ると思いき
や、実力者は存在しました。
おそるべし高田支部・後藤氏。



はい！来年の開催地は・・・
国東・高田支部合同開催で
す！たのしみ！



怪しい決起集会ではありません
ん・・・青年部会長・渡辺豊基
氏発声による万歳三唱。では、
また来年！

来年は「国東・高田合同開催」ですね！ぜひ会員全員で盛り上げましょう！

平成16年度九州ブロック建築士研究集会 「パッションINおきなわ」 参加者募集のおしらせ

日時：平成17年3月19日（土）12：00～受付開始
13：00～研究集会
18：30～懇親会

会場：沖縄市中央2丁目28-1 コリンザ3階
沖縄市民小劇場「あしびな〜」他周辺施設

テーマ：「ちゃんぷるー文化にチムドンドン」

日程：3月18日～20日（2泊3日）

経費等：航空運賃・宿泊費……シングル 32,800円
……ツイン 31,000円
……トリプル 29,400円

宿泊先：沖縄市胡屋2-1-43
ニューセンチュリーホテル
(TEL 098-933-5599)
※那覇空港からのアクセスは沖縄士会にて
シャトルバスを用意すべく調整中

応募締切り：平成17年2月18日（金）

- * 懇親会の経費については、参加人員の多少により3,000円程度の負担をお願いする場合があります。
- * ブロック会、分科会等の開催要領は、1月末に確定します。

テーマ説明：

「ちゃんぷるー」とは混ぜるという意味があり、「チムドンドン」は心わくわくするという意味があります。沖縄県は琉球王国当時、中国、朝鮮、日本、東南アジア諸国を結ぶ交易ルートをつくりあげ、独特の文化を築きました。

異なるものに敵対するのではなく、うまく融合（ちゃんぷるー）させることにより、さらに魅力ある心わくわくする文化へと昇華させてきました。

九州は一つという合言葉で、九州各県の青年建築士が「ちゃんぷるー」し、相互に刺激し合い、建築士としての自己研鑽を図るとともに、建築士会活動が「チムドンドン」する活動となる契機としたい。

大分支部主催 新春囲碁大会のおしらせ

日時：平成17年2月19日（土）9：30～15：30

会場：別府市青山5-73豊泉荘
(0977-23-4281)

参加料：1,000円/人

チーム編成：1チーム5名編成

応募締切り：平成17年1月28日（金）までに
事務局までご連絡ください。
(8チームになり次第締め切らせていただきます。昼食は支部にて準備します)



白砂中三屋 旧斎藤邸復元

(佐々木昭正氏 提供)

津久見支部 濱野 一明

福祉住環境コーディネーター

大村 正壽
金只 昌平

福祉住環境コーディネーターは、理学療法士・作業療法士を含む「医療関係者」とソーシャルワーカー・ケアマネジャー・社会福祉士・介護福祉士などの「福祉関係者」建築設計者・施工者を始めとする「建築関係者」などすべての関係者からの情報を整理し、問題点と課題の整理を身につけていることが求められています。その「建築関係者」の中心に建築士の方々がいる事と、求められている事を認識しておいてほしいのです。

津久見支部は「ふるさと振興祭」会場にて「高齢者・身障者のための住宅改修 無料相談」を試みて、パソコンによる福祉器具の紹介やパンフレットの配布を第一歩として始めました。



現在、この活動の成果なのか11月初め津久見市の介護保険系の住宅改修担当者より当支部に「介護支援専門員（ケアマネジャー）の方との住宅改修研修会」の案内が届き会員4名参加しました。

市の担当者の「介護保険における住宅改修について」という講義のあとの意見交換で、ケアマネジャーの方より、施工業者に対する意見、建具に対する質問や見積書の書き方の要望がありました。

その後、ケアマネジャー数人の方々に「住宅改修の現場で困っている事や問題点」をお聞きしました。その結果、以下の3点に要約されると思われます。

- ① 施工業者との打ち合わせと、出来上がりが違うことがある。
- ② 工事の時、お年寄り以外の家族が留守で相談もなく工事を終えた。
- ③ 出書類の書き方で明細を入れて欲しいと言っても〇〇一式と書いていて困る。

④ 材料、器具、工賃等の標準的な値段が簡単に解る方法を考えて欲しい。

①は、変更があれば業者とケアマネジャーとが必ず打ち合わせをする事で一応の解決を図ることは可能であろう。しかし、現場の状態や技術的な問題で変更を相談された場合の対処法については検討を要すると思われま

す。これら4点については、例えば市の担当者、ケアマネジャー、業者、建築士会等でプロジェクトチームを作り研究が必要と思われま

す。今回取り上げた、これらの問題について、関係者と検討を重ね、次の機会に少しでも前進した報告が出来ればと思っております。



(大分県社会福祉介護研修センターの活用もお勧めします)

このように在宅介護での住宅改修の課題や問題点は専門的であり、すぐに対応できるように士会皆さんの協力をお願いしたいのです。

改修工事では、ケアマネジャーと共に施工を進めていきますが、利用者の方にとって便利に仕上がる事が重要なのですが、現場監督のようにケアマネジャーが常駐している事はないのです。そこで、利用者の方の事を把握した上、施工する事が出来れば問題が減っていくと考えています。

「高齢者在宅介護」「障害者在宅介護」「視覚障害者在宅介護」「聴覚言語障害者在宅介護」「認知・行動障害者在宅介護」など、あなたは対応できますか？
介護の一般的なマニュアル本はありますが、症状によって応用して行かなければなりません。

たとえば手摺が付けれない場合、家具で対応する。慢性関節リウマチの方と骨折の方は歩き方が違うので、強固な手摺金具の選択・握り棒サイズの事も検討する必要となります。床は滑りにくい材料で施工すれば良いと考えがちですが、白内障・緑内障などの視覚障害者の方に対応した色彩計画・平行感覚も必要とされる方には柄も同時に検討しなければなりません。

車椅子は型式によって回転半径が違ふし、スロープの勾配はマニュアル通り施工すれば良いと判断する人が多いのですが、車椅子利用者の方の体形や介護人の性別・年齢等の情報を集め、スロープの勾配や踊り場までの距離を判断しなくてははいけません。

段差解消と言っても、タイル目地に足をとられる方もいますし、義肢装着者の方はスロープの下がり始めの時バランスを失う事もあります。

住宅改修をする事で生活環境が改善できれば、心理的介護と身体的障害介護が同時に行われるのです。建築の役割は介護支援にとって大きい分野なのです。段差・手摺・スペース・建具・色彩・非常時通報装置・メンテナンス等のアドバイスや施工に携わり「ありがとう」言ってもらえるまで頑張っていきたいです。

このように、津久見支部は、社会的な活動の一つとして、高齢者や障害者の住環境整備にお役に立てればと思っています。

各支部のみなさまで同じような活動や取組みがありましたら、ご教示頂きたくお願い致します。

主な専門職の役割

○=主に関与する
△=部分的に関与する

職 種	医 師	看 護 婦 (士)	保 健 婦 (士)	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク ー	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	ケ ア マ ネ ジ ャ ー	介 護 ヘルパー	建 築 士 ・ 工 務 店	福 祉 用 具 関 連 職
活動内容 ～医学的な役割～ ・医療行為、医学的管理 ・看護業務 ・健康管理、保健活動 ・医療情報の管理・提供・共有 ・補装具の処方 ・補装具の適応評価 ・心身機能面の評価 ・基本動作訓練（立ち上がり、歩行など） ・応用動作訓練（排泄、入浴、食事など） ・障害状態（身体障害者等級）の把握	○	△ ○ △ ○	△ ○ △	△	△	△	△			
～生活面での役割～ ・家族相談、助言指導、介護力の把握 ・身体介護、家族援助 ・生活動作の指導・援助 ・自助具の工夫・製作 ・福祉用具の相談・活用 ・住宅改修の相談助言 ・住宅改修の実施 ・関係機関・在宅サービスの調整 ・介護保険（要介護度、ケアプラン）の相談 ・地域の組織化・在宅サービスの開発			△ △	○ △ △ △	△ △ △	○ ○ △ △	○ △ ○ △	△ ○	○ ○	△ ○ △ △



個人的図書紹介

vol.7

伊勢神宮について

臼杵支部 笠木忠昭

日本の古代史については多くの私的史観があります。それほど不明の部分が多く、その解明に興味とともにロマンがそそられるということでしょうか。このことについて司馬遼太郎は次のように解説しています。

「記録のない古代を詮索するのは、実証性というレフェリーやリングをもたないボクシングのようなもので、殴り得、しゃべり得、書き得という灰神楽の立つような華やかさがあるものの、見物席にはなんのこともやらわかりにくい。

ただ、論者の人（にん）をみて、『あの人だから、言うことに間違いがよりすくないだろう。ときに奇矯の説を唱えるにしても、真実があるにちがいない』

という判定法は見物席に権利としてある。東大の井上光貞氏や京大の上田正昭氏、あるいは公式選手ではないにせよ、『騎馬民族国家』で参加した江上波夫氏や『古代史疑』で参加した松本清張氏などが、その人にあたられる。この場合の人とは、(略)「三郎殿は器量の人（にん）にておわします」というあの人で、つまり人間の器量ということである。(略)」（『街道をゆく 1. 長州路ほか』 司馬遼太郎 著 朝日文庫）

この器量を有した人としては、司馬史観と言われるように司馬遼太郎自身もその中に入っていることはあきらかですが、それに哲学者 梅原猛も同様の傾向があるように見受けられます。

そして建築家 磯崎新もイセについて参戦します。

まず「イセの神宮建築が近代建築家の関心をひくようになったのは、やっと1930年になってからのことである。」と切り出します。そして「じつのところ彼（伊東忠太）はこれまでイセを必ずしも評価していなかった。『明治初年西洋の建築学を標準にした時代には、これを以て、原始的南洋的の低級建築なりとし、建築学上無価値なるものとして、顧みられなかった』（伊東忠太著作集六『論叢・随筆・漫筆』「名建築論」 107頁、原書房、1982年）と正直に述べても



いる。」と、明治期の伊勢神宮への建築的評価の低さを紹介します。しかし、その評価を180度転回させるドイツ表現主義の建築家ブルーノ・タウト（1880～1938）を登場させます。ここでは、私の持っている図書からその意図される箇所を引用します。

「日本がこれまで世界に与えたものの源泉、あくまで独自の日本文化をひらく鍵、完成した形の故に全世界の賛美する日本の根原—それは外宮、内宮および荒祭宮をもつ伊勢である。

(略) 実際、この社殿はありふれた農家さえ想起させる。田圃のなかに建っているきわめて素朴な葺き草の作事小屋などを見ると、伊勢にある古典的建築物もこれと同じ本質をもっているかのような印象を与える。しかしこのことこそ、それらの建築物が古典的偉大さをもつゆえんである。それはこの国土、この日本の土壌から生い立ったもの、—いわば稲田のなかの農家の結晶であり、この国とその土壌との力を納めた聖櫃、すなわち真の『神殿』だからである。

日本人は、伊勢神宮を日本国民の最高の象徴として崇敬している。まことに伊勢神宮こそ真の結晶である。構造は、この上もなく透明清澄であり、またきわめて明白単純なので、形式はそのまま構造となる。同様にここに用いられている材料も、香りの高い見事な檜材、屋根に葺かれた萱、堅魚木の先端にはめた金色の金具から建築物の基底部分におかれた清らかな玉石にいたるまで、浄潔の極みであり、またあくまで清楚である。(略) すなわち構造と材料とは、至純であると共に相俟って見事な釣合を構成しているのである。この釣合もやはり純粹無双であり、実に一切のものが純粹の極致である。とりわけ釣合については外宮がもっともすぐれている。まことにその高貴な姿は、日本的な形のもつ大なる秘密と、また世界に冠絶するその力とを包蔵するところの貴重な結晶でなければ、とうてい表現し得るものではない。(略)

約言すれば、—外宮をもつ伊勢はおよそ建築の聖祠である。』（『日本美の再発見』 ブルーノ・タウト著 篠田英雄 訳 岩波新書赤39）

このように伊勢に対し、最高の賛辞を弄しているタウトは同書の他の箇所で「伊勢神宮は、先史時代に発祥する建築であり、いわば日本のアクロポリスである、だがアクロポリスのような廃墟ではない。」とまで言い切っています。磯崎新は、これに当時強く反応した同時代の建築家 堀口捨己（1895～1984）



と後世代の建築史家太田博太郎（1912～）の論をもって対峙するのです。

「この建物が千年の森の中に瑞籬、玉垣に囲まれて建造される時、その全体としての表現は『何事のおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼる』（西行）のごとき、感動を昔から与えていたのである。最近この建築を見たドイツの建築家ブルーノ・タウト氏は、『材料と構造と比例の純粋性において、これ以上のものは世界のどこにもない。日本人は伊勢神宮を国家的神聖物として尊敬するように、日本の建築家はそれを特に建築の最高神聖物として尊敬することができる。人はその美を筆紙に表わすことは出来ない。世界の建築家はここを巡礼の聖地としなければならぬ。なぜならば、この日本の独創的な作品は全世界を統べる唯一の作である。外宮は建築の神社である』と最大級の叙述をもってその感動を述べていた。」（堀口捨己著作集『**建築論叢三**』「建築における日本的なもの」）

次に太田博太郎の論です。

『何事のおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼる』と歌った西行は、伊勢神宮の何に感激したのだろうか。この歌は古来、西行の作かどうか疑わしいものの一つとされているが一般に広く知られているのは、日本人の気持ちの合致するところがあったからであろう。ブルーノ・タウトが『伊勢神宮こそ、全世界で最も偉大な独創的建築である』といて、パルテノンに匹敵するとした神宮の建築の美しさに、西行はうたれたのであろうか。おそらく、そうではあるまい。鬱蒼たる杉木立、そのうちに静かに立つ素木の神殿、そういった環境と建築の調和に心うたれたのであろう。同じ宗教建築で、しかも同じ日本に、神宮の建築と同じころ造られた法隆寺ではどうだろうか。現在では中門・回廊のなかに数本の松が植わっているが、本来は何もない一面の白砂で、境内も同様であったのだろう。この点では、伊勢でも瑞垣の内は一面の砂利で、木は植えてないから同様であるが、周囲の杉木立は建築を包んでしまうかのように圧倒的なボリュームを持ち、神殿はそのなかに、ひっそりと静まりかえっている。」（太田博太郎『**日本の建築 歴史と伝統**』）

この太田博太郎の論に対して、磯崎新は「彼は、西行的な評価により比重をかける。タウト的な評価はほとんど儀礼的にふれるだけで相対化される。」として、建築評論家・川添登のイセ論を引用します。

「西行ほどの人物が、伊勢神宮の祭神が天照大神であることや、それにまつわる神話などについて知らなかったはずはない。（略）日本人には、古くから人間社会の背後に働いている自然の神秘を信じていたが、それは口に出して語れるような論理的な反省による性格のものではなかった。まさに『何事のおはしますか

知らねども』なのである。」（上田正昭編『**伊勢の大神**』（川添登「神域と遷宮」））

そして磯崎新は「もはやここでイセの神宮建築の評価は、西行的なもので充分であるとされている。」と説明するのです。そして「イセという問題構制」の核心を語り始めます。

「（略）それは13世紀間におよぶ持続である。他に類例がない。これはもはやミステリーである。それゆえに誘惑にかられる。近代的思考においても例外ではない。この持続の由来の根源を、ほとんどすべての研究は、起源の探索に置きかえる。それが発見されたなら、誘惑の発生する理由も説明できるだろうとひそかに期待が寄せられている。だが、ここには錯誤がある。イセにおいては、実はなかったはずの起源が“隠されている”からこそ誘惑が発生するのだ。建造物、祭祀、歴史的成立の事実、そのすべてが“隠されている”ことこそがイセという問題構制の基本となるというべきなのである。イセはひとつの時点で捏造された。だから起源などない。だが、それがあったかのごとく騙ることで、誘惑が持続する。その騙りかた、つまりこれが“隠すこと”だが、それだけを私たちは杉木立の奥に見ることができる。四重の垣の奥の社殿、闇のなかで行われる遷宮の儀式。それらは存在することを感知できても、直接眼で確認できない。さらには『日本書紀』において、その成立の由来も曖昧にされている。むしろ捏造の事実を隠蔽してもいる。だからイセの起源を探索することは、かえって標的を見失うことになる。たんに騙りにひきこまれるだけである。ここでは虚構の捏造されていく際の“隠しかた”としてのレトリックこそが注視されるべきで、イセの真実はそこにしか存在しない。（略）」

私も三十数年前大学入学の折り、両親と母方の叔父とで御伊勢参りをした思い出があります。厳重な警備と当時はまだ珍しかった防犯カメラを覚えています。肝腎の伊勢神宮は、述べられているとおり、何重かの垣に囲い込まれ、見ることも出来ませんでした。“隠されている”ことそのものでありました。

この論を補強する古代史に関する幾つかの考察があります。まずは、梅原猛の論考です。

「欽明朝における任那日本府滅亡は、すでに朝鮮半島における情勢の絶望なことを示していたが、まだ日本政府は日本府の回復に強い希望をもっていた。しかし、白村江の戦いは、この朝鮮半島での拠点を一気にうしなわせることになる。過去の甘い夢は、一挙にして打ちくだかれたのである。

当然、日本は、海洋国家から農業国家への転進を余儀なくさせる。この白村江の戦いの九年後に起こった壬申の乱、また、その後の日本国家のあり方は、そう

いう歴史の必然の方向にそって進む。そして、そういう歴史の方向が、同時に宗教政策の上にも反映される。おそらく東国経営の海軍根拠地であったと思われる伊勢には、雄略帝の時に、アマテラスという皇室の祖先神とされる太陽の神が祭られたが、その神を豊受大神宮とならべ、内宮・外宮のセットにして最高の国家神にしようとしたのは、天武帝（在位673～686）の宗教政策であろう。アマテラスの神は、海と緑の深い太陽神であるけれども、海の神だけでは国家の神としては不十分だったのであろう。豊受の神、宇迦の神、この農業の神が、太陽の神とコンビになってはじめて、日本国家の中心的な神となることができたのである。（略）

われわれは、天武・持統の宗教改革について論じてきた。つまり、彼等（はもはや）外来の仏教や儒教では、日本の国家統一のイデオロギーとして不適當であることを知っていた。そこで彼等のとった方向が、神道改革、新しい神道の創造である。その第一歩は、伊勢内宮の建設であった。

伊勢に天皇の祖先神を祭る。崇神帝にはじまる崇る神の崇拜、応神帝のとき強くなる海の神の崇拜、物部氏のフルの神、神武崇拜にかかわって皇室の祖先の神をあらゆる神の中心におくことがここで必要であった。もしアマテラスが持統帝をモデルとしているとしたら、伊勢神道の完成こそ、持統帝の子孫たちにとってもっとも好都合ではないか。伊勢はすでに五世紀末、大和朝廷の関東征服の有力な軍事基地であった。その古くから伊勢にある神社を外宮とし、新に国家の大社の内宮をつくった。（略）」（『神々の流竄』 梅原猛著 集英社文庫 初出 昭和45年6月）

松本史観での松本清張は、「伊勢神宮の起源」と題したように述べます。

「では、どうしてそんな地方に皇祖神をまつる伊勢神宮を持っていったのか。書記はその理由を崇神六年の条で説明している。

天照大神と倭大国魂（出雲系の信仰）とを宮殿にいっしょに祀っていたところ、両神は共に住むのを好まず、つまり仲が悪いため、国内に疫病が流行した。よって天照大神は大和の笠縫邑に祭り、大国魂は三輪山に祭った。

大国魂は大田田根子という出雲系の祭司がついてそこにおさまったが、天照大神は笠縫邑には落ちつけずに、倭姫命の棒持ちで、菟田、近江国、東美濃をめぐ



って伊勢国に入り、（前記の『伊勢国は常世の波の』という託宣となって）五十鈴川の川上に斎宮をたてた。『これを磯宮と謂う。すなはち天照大神の初めての天より降ります処なり』（垂仁紀二十五年）。

まず、なぜに大和朝廷の祖神とされる天照大神が地元の大和国内に祀られずに転々と流れて伊勢に鎮まったかという疑問がおこる。祖神はじぶんの領内にこそまつるべきだからである。

これは大和が先住の地元信仰（いわゆる出雲系の信仰。倭大国魂は大和におけるオオクニヌシの霊神）で占められているため、あとから大和に入った外来の天皇家勢力の信仰は地元信仰に圧迫されて、大和国内にその祖神を祀ることができなかったからである（第二巻『空白の世紀』参照）。

そこで、やむなく天照大神は伊勢に『降臨』したのだが、その斎宮を『磯宮』といったというのが目をひく。磯宮というのは前からそこにあった土地神（地元の信仰）の宮である。斎宮を磯宮といったのではなく、磯宮に斎宮が宿かりしたのである。（略）」（『清張通史 5 壬申の乱』 松本清張 著 講談社文庫）

司馬遼太郎は、出雲系の地元信仰である三輪山信仰を述べるにあたり、逆にイセの新しさをさらりと語ります。

「三輪山は面積ざっと百万坪、倭青垣山（やまとあおがきやま）というその別名でもわかるように、大和盆地におけるもっとも美しい独立丘陵である。神岳（かみやま）という別称もある。秀麗で靈気を感じる独立丘陵を古代人は神南備山（かんなびやま）となえて山そのものを神体としてまつたが神南備山である三輪山は、日本におけるその古代信仰世界の首座を占める。伊勢神宮の形式など、はるかにあたらしい。

『日本最古の神社』

とよくいわれるが、その程度の言い方でもなおこの三輪信仰の靈威の古格さを言いあらわしがたいであろう。」（『街道をゆく 1. 長州路ほか』）

論が伊勢神宮の起源になってしまいましたが、磯崎新は日本文化の成り立ちの形を語りたかったのです。「外圧によって社会的な変動が起こり内乱につらなりその挙句に文化的に和様化が進行するというパターンを日本は歴史的に反復している。『西行的』な“自然”の畏怖力へ逃げ込むのは、この和様化の特徴をしめすものでもある。」その論拠として「式年遷宮はテン



ム帝十四年（686）に制定されたことになっている。この年、爵位名が唐風から日本風に改定されている。梅沢伊勢三はこの変化をとりあげて『これは天武のこの時代に、日本語への関心を通して国粹への反省が存在したことを端的に物語る事実とってよかろう。天武朝が保守的国粹的な時代であったということは史学者の指摘するところであるが、単純にそう言い切れるかどうかはともかくとして、推古以来の外国模倣に対して、日本語への再認識が起りはじめていたことは、この一事からも確かに推理し得ると思われるのである』（梅沢伊勢三『古事記と日本書紀の成立』吉川弘文庫）といっている。」

日本建築、特に仏教建築については、建設の年代がわりとははっきりしています。それにひきかえ、日本古来の神道の神社建築については、伊勢にしても出雲にしても、それがいつ創建されたのか、遠く霧の中を見るようで、あきらかではありません。そこにミステリーがあり、ロマンがあり解明のための思考回路が動き出すのです。イセについて磯崎新は次のように結論づけます。

「長年繰り返された式年造替とは、すなわち始源のたび重なる反復である。子安宣邦は本居宣長の『古事記伝』は始源としての『古事記』の“再語り”であるという。（略）

反復する造替とはここでいう宣長の再語りと同じである。それは始源をなぞることである。それゆえに列挙された建築的特徴が保持されて、それがいつしか『日本的なるもの』に格づけられていく。造替によってかなり大きい改変がなされても、純粋形へ収斂する方向のみ軌道が修正される。始源が回復されねばならない、という基本的な指令暗号がひそんでいる。始源はいかなる場合も虚構である。そこには始源の前に起源があるかのごとき騙りがひそんでいる。起源が“隠され”ようとする。むしろ始源が起源を虚像のように浮かばせてしまうのだ。そこで、誘惑がはじまる。これがイセにしかけられている罠であり、ナショナルリズムとして『日本的なるもの』、天皇的なるものに絶えず回収されていく絶妙な文化機構として保持されているものなのである。」（磯崎新の論はすべて『始源のもどき ジャパネスキゼーション』鹿島出版会 1996年3月10日発行、による）



“隠す” ことについては、上田篤京都精華大学名誉

教授は、都市と神という別の観点から語ります。

まず『都市と神さま』ということ、このごろかんがえる。

都市のことをあれこれかんがえていくと、どうしても神さまの問題にぶつかってくるからだ。たとえば都市の定義である。それは古来から馬に食わせるほどある、といわれてきた。

しかし今日では、農山村が食料をはじめとする『モノの生産の場』であるのにたいして、都市は『情報の生産の場』である、ということではほぼ大方の意見が一致している。じっさい、情報生産は、都市とくに大都市において、科学技術、芸術、スポーツ等の各分野で、日々、活発におこなわれている。そしてその情報生産の担い手は、大学であり、官庁であり、マスコミであり、会社などである。

ところが、昔は情報生産の担い手はたいい神さまだった。神さまのいるところに多くの人間が集まり、情報が交換され、そのおかげで生産が向上し、富の蓄積もおこなわれた。

そこで最近では、そもそも都市というものは『神さまのいる場所、つまり神殿のあるところではないか』（梅棹忠夫）などと、かんがえられるようになってきた。」と前置きし、「宗廟（祖先の霊を祀った宮）と社稷（しゃしょく：「土地の神」と「五穀の神を祭った宮」）をつくらなかつた平城京は都市だったのかと自問する。そしてその答えが次の引用であります。

「都市に一般の人が参れる神殿が存在することは、外部からやってきた人々や見知らぬ人間にとっての視覚的、心理的效果が大きいからだ。

ところが、さきにのべたように平城京には城壁がない。かわりに、内裏や大内裏のまわりは高い土塁や築地塀で守られていた。とすると、平城京にやってきた人々が目にしたのは、大内裏などのまわりのこの高い土塁や築地塀、つまり『宮城』であつたろう。しかしそのなかは一切、窺いしることができない。

じつはこの点が決定的に重要である。

人民の目から隠される、という行為によって、ある時期から、具体的にいうと壬申の乱で勝利した大海人皇子、つまり天武天皇から『天皇は現御神（あきつみかみ）』として『巫（かんなぎ）』つまりカミサマになったのである。そして本物の巫女は、皇祖神アマテラスを祀る斎王（いつきのみこ）として伊勢に派遣された。

その証拠に、天武の意志を継いで即位した持統天皇は、国号を倭（やまと）から日本に、王の称号を大王から天皇に変え（『浄御原令』）、さらにわが国初の皇都・藤原京を完成させてその中央に内裏と朝堂院からなる防備嚴重な藤原京という名の宮城をおいた、つまり天皇を隠したのだ。

先にのべたように、神さまだけでなくカミサマも奪われないために隠すとすると、持統はカミサマになり、宮城はその『神殿』となったのである。そして天皇を頂点とする律令制の『官政国家』が平安末までの五〇〇年間、わが国に開かれたのである。

すると平城京にも宮城すなわち神殿があり、したがってこれは間違いなく都市であって、そのなかにカミサマがいたことも理解されるではないか。(略) (『都市と日本人「カミサマ」を旅する』 岩波新書赤本 854)

観点は異なるようですが、似たようなことを述べているようには思いませんか。

ここで再び『始源のもどき』に戻ることにはしますが、始源と起源とはどう違うのでしょうか。また“もどき”とはどういう意味で使われているのでしょうか。「広辞苑」では、起源：物事が起こる根源。物事のおこり。はじまり。もと。となっており、始原：物事のはじめ。と書かれています。これだけではよく分かりません。本書ではどう使い分けをしているのでしょうか。

「六九〇年の第一回遷宮のころはこの祭祀の場に殿舎が出現していただろう。遷宮が式年造替を指している言葉でもあるから、祭祀の場はもはや裸のままではなかっただろうが、それ以前の状態については、心の御柱だけが建てられていたという説(川添登)や簡略化された高床や校倉の、おそらく今日の宝殿を想わせるような建物がすでにあったという説(堀口捨己)などがあるが、いずれも推量しているだけで証拠はない。七世紀以前の状態については隠されてしまっているのだから、語れない。いいかえると、地上につくられているイセの神宮建築そのものは、その始源より以前を“隠す”ために建てられている、と言うべきなのだ。起源を“隠す”ことが図られた。そこに祭られているカミもまた“隠される”ことを必要とした。そこで“隠す”ための手段が開発されたとみるべきで、それがイセの神宮建築のデザインを決定づけているといえるだろう。(略) (『始源のもどき ジャパネスキゼーション』) こういう使われ方をしております。この本の他所では「初源＝ビギニング、起源＝オリジン」という定義もされております。

では“もどき”とはどういう意味でしょうか。これも「広辞苑」では、もどき：《接尾》他の語についてその風采・風情に似たように作り立てられている意味

を表わす。まがい。となつていますが、本書では次のような使われ方をしています。

「(略) 記録写真や図面等いつさい公開されていない。ここでもまた“隠される”ことが主要なジェスチュアとして浮かびあがっている。見えないカミにむかって、実用的な道具や衣裳や食物までも献じている。その儀式の所作は“もどき”、つまり擬態である。すなわち、ここでは見えないカミに捧げるための所作がなされているはずである。これは日本の演劇が神に捧げる儀礼をあらためて観客にむけて演じるとされ、このとき、もどきの型をなぞることに通じている。能や歌舞伎は実は観客にむかって演じられているようにみられるが、実は、カミの依代である鏡板や、観客の背後にある櫓にむかって演じられ、観客はそれをかい間見ているにすぎないといわれる。演技はつねに奉獻儀礼なのである。」と、こういう事であるのです。また別の書では“もどき”を次のように一般的な例でもってで説明しています。

「(略) 見晴らして名付ける。それがおそらく、その地域にひとつの文化が発生した始まりなんだろうと思います。

そこで名前が決まりますね。そうすると、『私は山口の人間です』、『私は京都の人間です』というようにみんなその後、住んだ場所の名前を冠して、個人もひとつの共同体もそういうふう言い始めます。それを言うことは、一番最初に名付けたものを繰り返しているわけです。反復しているわけです。それが最初にちょっと申し上げたように、一番最初の発生状態を繰り返す、それを『もどく』というふうに言っていると思います。『もどき』と言うとこれはひとつの同じ事を繰り返していく、擬態として繰り返すことです。もどきがそこにあることによって、その文化が保持されている。こういうふうと考えていいのではないか。(『磯崎新の発想法』 磯崎新 著 王国社 1998年 4月10日初版発行)

ところで、私のうろ覚えですが、たしか名古屋の熱田神宮は“隠されている”伊勢神宮の式年遷宮による、古材を使って建てられたと聞いています。だから明治三十年頃、熱田神宮は突如として神明造りとなったそうなのです。



シリーズ 登録文化財 No.13

「岩尾家住宅」(旧日本丸製薬所)

このたびご紹介させていただきます岩尾家住宅は、平成15年に国の登録有形文化財となった建物で、主屋、土蔵、離れの三棟からなります。また、これらが立地する日田市豆田地区は、今年10月15日付で国の重要伝統的建造物群保存地区選定の答申を受けており、豆田地区を代表する建物のひとつとしても重要なものです。

1. 岩尾家の沿革

岩尾家は、安永2（1773）年に十四代半蔵が豆田町内の平野町に居を構え、薬種屋「伏見屋岩尾古雲堂」と号して開業したといわれています。その後十五代昭太郎は、明治20年に特効薬「日本丸」を開発販売、全国規模の製薬会社となり、一時は海外まで販路を拡張しましたが、昭和40年原料入手困難に伴い製造を中止し、現在の岩尾薬局となりました。丸薬に朱をかけた漢方薬処方効能薬「日本丸」は多くの人々に服用され、明治、大正、昭和の中期まで愛されました。



2. 建物について

こうした岩尾家の最盛期、江戸期に遡る土蔵に主屋、別棟座敷の増築が重ねられ、現在の姿に至ります。

主屋は上町通東側に西面して建ち、大正15年の建築と言われ、入母屋造本二階建て平入に造り、南端に向唐破風付の玄関を設け、土間店から北側の通り土間に通じ、居室6部屋を配ります。奥南端の仏間廻りは柱・胴差等に古材が残り、仏間を包み込んで築造したことが知られています。



二階は表に三十二畳半の会議室兼用の大広間を配り、

奥に二間幅の畳床に平書院を付けた十八畳の奥座敷、六畳・四畳等の小部屋をつなぎ、東に漆塗の縁側を付けています。縁側外には屋上庭園を配置し、奥座敷より望むことができます。また、三階展望楼は昭和前期の「日本丸」隆盛期の増築で、化粧軒の銅板葺屋根仕上となっています。



北側に隣接する袖蔵は明治13年に切妻造二階建て建築され、大正15年に三階部分を増築、一階奥の釜屋は吹抜に造られ、安政2年のものと言われています。袖蔵と主屋の階高が異なるため、平面構成は複雑となっています。主屋裏手の別棟座敷は棟木墨書に明治31年上棟とあり、切妻造本二階建てを一・二階ともに主屋から渡り廊下で継ぎ、主座敷を二階に配置し数奇屋風の軽快な造作意匠の仕上で建築当時のまま残されているものです。その他、裏手にあった酒蔵と工場蔵は昭和54年頃と昭和60年頃に取り壊されました。

主屋は平成3年9月に台風被害を受け、翌年市の都市景観形成建築物指定による補助で修理を行っており、現在は黒漆喰を白漆喰塗に改めた外壁となっています。

主屋三階増築以前の古写真では、主屋は黒漆喰、袖蔵は白漆喰仕上げで腰は海鼠壁と識別できます。店舗部分に多少の改造はあるものの、その旧状をよく留め、豆田町の歴史的景観上からも一級品の建物です。

※この文章は『日田豆田町一日田市豆田町伝統的建造物群保存対策調査報告』（平成16年3月31日日田市教育委員会発行）より抜粋、加筆したものです。

MY WORK

- ★建物名称 通気断熱WB工法住宅
- ★建物場所 津久見市上青江4076-2
- ★建築主 松田 昌三
- ★設計・施工 (有)野崎建築 代表 野崎 重喜
- ★構造・面積 木造2階建て 117.95㎡
- ★建物用途 専用住宅

この住宅は生活環境問題を新工法で対応した建物です。外壁と屋根は通気層を設けた二層構造とし、自動開閉式の軒裏吸気口と棟換気を設置。室内は開閉式吸気口と照明器具一体式ファンを設け、室温調整できる構造になっています。玄関と奥座敷や2階の押入まで家全体が一定温度です。結露・熱さ寒さも気にしないで過ごせると家族も大喜びでした。年間薄着でいられる程の環境で、人に優しく光熱費も安く、化学物質対策も万全と、一步進んだ快適住宅が出来ました。



- ★建物名称 大分スポーツ公園展望休憩舎 東屋、パーゴラ
- ★建物場所 大分市大字松岡字牧の内他
- ★建築主 大分県知事 広瀬 勝貞
- ★基本設計者 大分県大分土木事務所 スポーツ公園建設部
- ★実施設計者 (株)エム・シー・エス環境計画
- ★施工者 (株)ベネックホーム
- 日豊技建工業 (株)
- ★構造・面積 木造、テント
- ★用途 休憩施設

大分スポーツ公園、ピックアイ北東側の多目的広場 I の片隅に位置する。
当初、鉄骨造FRP製の既製品で計画されたが、県産材大口径木材を使用する絶好の機会であり、階段の上り下りに変化を感じる手作りの展望休憩舎を提案した。周囲を囲む他の東屋、パーゴラと形態を合わせ、芝生の大広場の統一感を醸し出すことを意図した。
(笠木 忠昭)



MY WORK

- ★建物名称 別府市立南小学校
- ★建物場所 別府市浜脇3丁目7番13号
- ★設計者 (株)内藤建築事務所
- ★施工者 和田・平野建設工事共同企業体(管理教室棟)
光綜合工業株式会社(屋内運動場)
株式会社和田組(プール)
- ★敷地面積 11,051㎡
- ★構造 SRC造3階建て(一部鉄骨)
- ★延床面積 6,712㎡

★設計趣旨

別府市内でも初めての本格的な「オープンルーム」と「ワークスペース」を主体とした校舎・教室です。管理教室棟は、ぬくもりのある木質系を基調としており、エレベーターの設置、段差の解消等のバリアフリーにも配慮しています。

また、地域開放スペースとして、さまざまな活用が期待できる交流ラウンジ、多目的ホールを設け、学校と地域の連携が図れるようにしています。



全 景



外観(北西面)



1階平面図



2階平面図



3階平面図



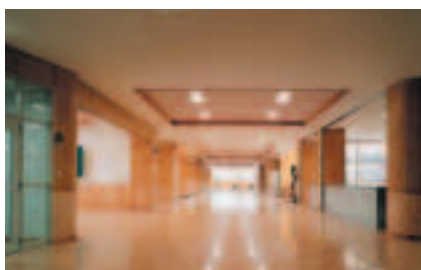
交流ラウンジ



多目的活動ホール



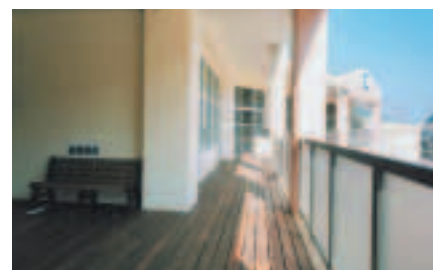
外観(南面夜景)



ワークスペース



教 室



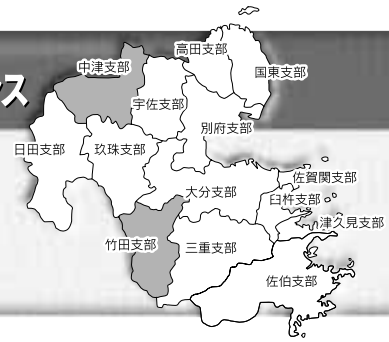
バルコニー

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

会員紹介

(掲載については順不同です)



★生年月日 昭和44年1月26日

★勤務先 (株)友岡建設

★趣味 音楽鑑賞 読書

★将来の夢、モットー等

お施主様やその建築に関わる様々な関係者に御満足頂ける建築を設計し、施工する。

このことを念頭に、これからもますます頑張っていきたいと思っています。



玉田 智 (竹田支部)

★生年月日 昭和52年4月29日

★趣味 サッカー

★将来の夢、モットー等

昨年建築士を取得し建築士会中津支部に入会させていただきました。先輩方のいろんな経験と知識を学び、自分の力となるよう努力していきたいと思いをします。

また、建築士会の行事には積極的に参加し、交流を深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



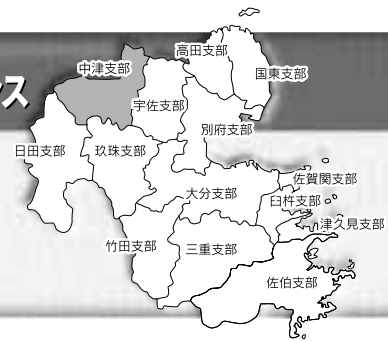
新貝 学 (中津支部)

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

会員紹介

(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和51年12月28日
- ★勤務先 是本一級建築士事務所
- ★趣味 音楽鑑賞
(ダンス系からクラシックまでと幅広)
- ★新会員挨拶、将来の夢

私は、中津市に住んでおり父の家業を手伝っています。以前は、大分市の設計事務所に7年間勤務し、師匠と先輩に「建物の創り方」を教えてくださいました。この度、中津支部に入会致しました。これからは故郷である中津で、建築士会の先輩方と一緒に、また、市の職員方や地域住民のみなさんと共に、歴史ある中津の「城下町としての町づくり」に協力していきたいと思っています。

私の夢は、湯布院の様な隠れ里的な町(潤いある、活気ある町)を目指して、山国町耶馬溪のような観光名所で、大自然と人が共存出来る町おこしをしていきたい。

(^0^)/



是本 昭善 (中津支部)

- ★生年月日 昭和45年7月3日
- ★勤務先 綜合技建株式会社
- ★趣味 旅行、写真
- ★将来の夢、モットー等

今年の1月に、10年間勤めたゼネコンを辞め、大分に帰ってきました。

以前は現場管理が主な業務で、大きな、公共性の高い物件が多く、それなりにやりがいもありましたが、物件は小さくなっても、一から十まで自分のアイデアを形にすることが出来る今の環境はもっと楽しいですね。

14年ぶりに帰ってきた中津は“寂れたなー”というのが第一印象ですが、建築の分野で少しでも中津を盛り上げられるように、がんばりたいです。



三好 大策 (中津支部)

特 殊 子 ども 大 工 道 場 宇 佐 支 部

宇佐支部 身深 文廣

大分県の事業で子ども大工道場が行われました。県北地区では宇佐支部が担当するようになり、宇佐市立西馬城小学校（全校28人）の5・6年生8人が挑戦しました。造るのは2間×1.5間、約11平方メートルの木造平屋建ての小屋です。子供たちはヘルメットにハッピー姿。基礎工事では、土間鉄筋の結束に、なれないハッカーを持ち体験しました。また、ハッカーがなかなか気に入り、はなさない子もいました。



子供のコメント：

最初はなれなかったけど4・5回練習すると慣れました。コンクリートを流し込むのがプリンみたいになっていくのがびっくりした。

建てかた時には、2人1組で柱を持ち組み上げてきました。母屋と東のカスガイ打ちにも挑戦。また、小屋の内部全体に敷く、すのこ板も大工さんの指導のもと手際よく作れました。



子供のコメント：

水平を調べる道具を見て、このような道具を使って家がまっすぐ立っていることが分かった。柱を支えていると、上から打ち込む振動が伝わってきて、棟梁さんの力強さを感じた。

「おおいた子ども大工道場」

大分県の主催で、小学校高学年から中学生を対象に、木造建築の現場実習や講座・施設見学等をおこない、木造建築に関する知識や愛着を持ってもらうため、県下の7団体で行なわれている。



棟上には、子供たちの手作りのふきながしを立て、小学校の実習田でアイガモ農法で作ったもち米でついた紅白のお餅を子供たち5・6年生がまきました。

子供のコメント：

餅まきははじめての体験。お餅を拾うより、まくほうがずっと楽しかった。

外壁は、防湿シート張りとサイディング張りに挑戦しました。建物完成後は、子供たちが壁面に卒業記念として絵をかき児童憩いの場や、ボールなどの遊び道具の置き場として活用するという。



子どものコメント：

家を建てる経験ができて、自分たちの小屋ができてうれしい。みんなで使えるように、小屋の名前を考えたり、外壁に絵を描いたりしたい。

最後に支部長として物心両面ご協力くれた友和建設工業の方々に改めて感謝いたします。

特 殊 子 ども 大 工 道 場 竹 田 支 部

NPO法人「たけたまちなみ会」

入門式 6/19

期待に胸ふくらませ
入門式に出席しました。
(子供たちより私が・・・)



CAD体験と木にふれる 7/10

学校で飼育している、うさぎとモルモットの為に『うさぎとモルモットの家』のプランを提案してもらった。四角形あり、八角形ありでそれらの提案をできるだけ採用することとした。

CADによる図面の描き方や施工、監理について説明し、建物が誕生するまでの過程を子供達に説明。パソコンには興味を示し、図面を見て出来上がりを楽しみにしているようだ。



今日は、竹田市の奥、水清らかな神原溪谷での研修です。欠席者もなく、車三台に分乗して神原緒環（おだまき）に到着、子供の口に合ったかわからないがヘルシーハンバーグで地元の婦人会が研究、葉草などを



取り入れ料理したそうです。さて、いよいよ研修。支部長の短い挨拶に続いて地元で木材の加工、造林を行っている後藤さんの杉山へ、詳しい説明を受け子供大工達は十分理解したみたい？山では木の葉で水を飲む方法などを教え、水を美味しく飲んでいました。その後、加工所で研修。緒環にもどり、建築材料の勉強を山浦一光の講師で行い有意義な研修でしたが・・・私自身は子供たちへの説明の難しさ等、私も大いに勉強になりました。

『うさぎとモルモットの家』

最初は好奇心から大工をやってみたくらいと思いましたが、



しかし、実際やってみると意外に難しいと思ったこと

でしょう。ウサギ小屋上棟の実技になるとそれぞれが得意な分野で輝きだしたのには驚きました。

段取り方、釘打ち、ボルト締め、切断、穴掘り-----

おもしろくなって一生懸命やっているのがすごくわかりました。子供たちがわいわい言いながら完成したな〜と、とっても嬉しそうに喜んでいたので今でも目に浮かびます。この体験を通じて将来建築の道を歩む子供が一人でも多くいることを祈っています。



製材所・建材店 プレカット工場見学

製材所見学では、伊藤製材社長より説明をしていただき、丸太から角材になるまでや年輪の勉強をしました。一番興味を示したのが鋸屑で、「これなーに」「食べらん？」「うもーねー」でした。

2ヶ所目は建材店(タケモク)では、ショールームのユニットバスの浴槽の中に座ったり、システムキッチンの食洗機をさわったり楽しそうでした。倉庫では店長に床、壁、天井に使用する建材の説明をしていただき、床材には合板、集成材、無垢材があることや、燃えない建材、断熱材などを教えていただきました。

プリント合板や杉柵ベニヤを見てプリントの技術に感心していました。

3ヶ所目はプレカット工場(大分プレカット)、工場内に入ると説明もそこそこ自動で加工する機械に見入っていました、最後には子供らしく「すげーなーこれなんぼ？」と言う質問で終わりました。



まちなみ見学 11/23

今回で最後の実習となり、子供たちに竹田の町並みと歴史的建築物及び上棟したばかりの現場の見学をしました。

校区が違うためか身近にいながら竹田の町をあまり知らない子供もいて意外な気がしました。それでも歴史的建物には、興味を示していました。

木造現場では、大工棟梁に工事金額を尋ねる子供もいて現実的であると感じながら無事終わりました。



インフォメーション

INFORMATION

高田支部



お出かけしましょう！

高田支部 成重 憲一

国宝富貴寺大堂の隣に、2004年10月にオープンした、旅庵「^{ふきのとう}落臺」を紹介します。

訪れた日が土曜日だった事もあって、富貴寺を見学する観光客で賑っていました。旅庵「^{ふきのとう}落臺」は、高台にあり食事や散策しにくる人はいるものの静かで落ち着いた眺めの良い場所に建っていました。

建物は、食事棟と宿泊棟（5室）さらに離れ棟が2棟です。食事棟のやや丸みを帯びた寄棟の銅板屋根、木製建具や漆喰塗りが建物全体にやさしい印象を与えていました。



食事棟から中に入ると、柱や梁は表しで見せており開放的で、昔民家にあったような土間のような懐かしさを感じる様な空間でした。



ホール

食事コーナー



宿泊棟の1階には、男湯・女湯・家族風呂とあります。泉質は、まだ検査中なので、分からないそうです。この記事が皆さんが読まれてる頃には、分かっていると思います…。



男湯

見せて頂いた宿泊部屋は、縁無し畳に大壁の漆喰塗りというシンプルな部屋でした。また、部屋にはトイレと洗面がありましたが浴室は無く、お風呂は1階の温泉を使用する部屋のような部屋でした。離れの部屋は、温泉が付いているので人気が高いらしく、宿泊されている方がいたので、今回は中を見る事ができませんでした。



部屋

富貴寺周辺には、真木大堂や熊野磨崖仏など史跡があります。観光の拠点に宿泊したり、豊後高田市の特産「ぶんご合鴨」を使った郷土料理を食べに行ってみては、いかがでしょうか。



地図

旅庵「^{ふきのとう}落臺」

TEL

0978-26-2668

FAX

0978-26-2677



「自分のプランが形になる」 夢を叶えるチャームクリエイト賞

大分支部 坪井 敬行

もうご存知の方も多いとは思いますが、今年度より大分市は、公共建築物の設計を一般市民から募集し、大賞作品を実際に建設する『チャームクリエイト賞』を創設しました。

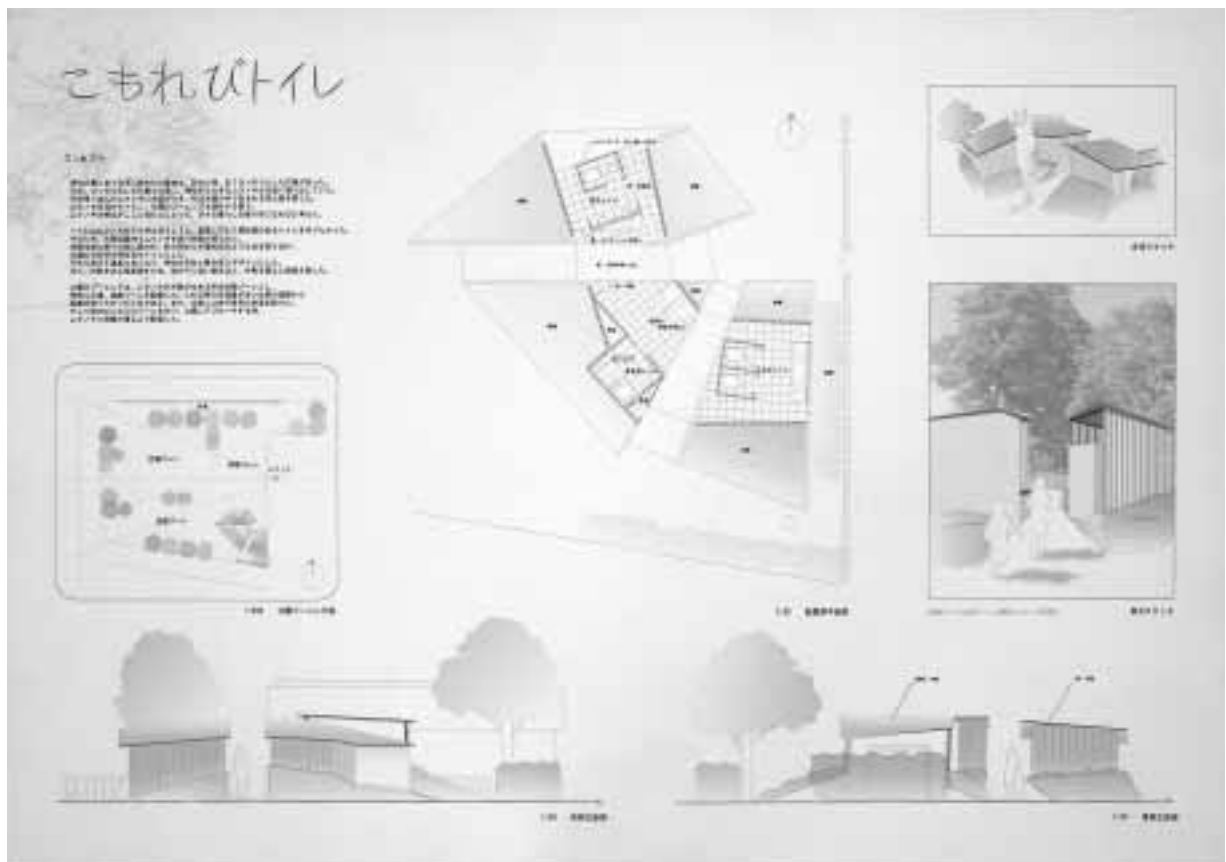
『市民みんなの手で魅力あるまちづくりをしよう』をモットーに市民参画型行政を目指す取り組みで、大分市内に居住する個人（建築の設計・施工を業としている者を除く）を対象にしています。第1回となった今年の題材は、大分市下郡北にある城の内公園トイレ。今年の4月1日から6月30日まで募集し、寄せられたのは全93作品。

大分市はこれからもチャームクリエイト賞の開催を年1回予定しているようですので、今後毎年1ヵ所ずつ市民の手による公共建築が増えるとともに、建築を目指す若者に夢を与え、創造性豊かなまちづくりが実現されることに期待が寄せられます。

その中から『大賞』『一般の部優秀賞』『大学（各種専門学校含む）の部優秀賞』『高校の部優秀賞』（各1点）が選ばれました。みごと大賞には松川洋輔さんの作品で、タイトルは『こもれびトイレ』。来年3月中旬までに、松川さんのアイデアが実際に形となり、建物には名前を刻んだ銘板をはめ込むそうです。



今年度大賞の建設予定地





津久見市 ふるさと振興祭

青年部長 金只 昌平

ふるさと振興祭出店の巻



毎年恒例の津久見市ふるさと振興祭は、主に市内の生鮮農水産物や加工品の販売と、地場産業のPRを目的として開催される。

今年で第22回目を迎え、参加20年目となった。

10月30・31日の2日にわたり催された。

初日は何とか雨も降らず、出足も例年通りだったが、2日目は朝からあいにくの雨で、出足も今ひとつだ。

さて、われら建築士会津久見支部とはいえば、これも恒例となった「ホーバークラフト」の体験走行と、木工品の販売である。ホーバークラフトはグラウンドと雨の関係で、初日の2時間だけの走行だった。

改良に改良を重ね4代目となる今年の艇は、横方向の安定感に不安があるが、まずまずの滑りだ。



子供たちが50円玉を握り締め「おっちゃん乗せてー」とやってくる。操縦する小代・金只両氏の燃料は、走っているときの子供たちの笑顔だそう。

そしてその売り上げは、支部会員のアルコール燃料になったとか・・・。



木工品の販売は、例年に無く好調な売れ行きを見せ、2日目にはほぼ完売となった。デザインに凝ったものより、使い方はっきりした実用的な作品が多かったからではないかと思われる。

今回初めての試みとして、支部ホームページ紹介と「高齢者住宅改造無料相談コーナー」を設置したが、PR不足のせいか、お祭りにはどうもなじめなかったようだ。しかし、これから取り組んでいく必要がある分野である。



<写真協力> 大村・山本



佐賀城研修旅行に参加して

竹田支部 永井 剛

10月22日、好天の恵みを受け佐賀城本丸歴史館の研修と玄界灘海岸の潮風を浴び、何かを求めたい気持ちで研修旅行に参加しました。

竹田を朝6:00に出発し、吉野ヶ里を経て午前11:00に目的地の佐賀城本丸歴史館（H16.8.1開館、本丸御殿の遺構を保護しながら復元された。）に到着しました。心地よい秋の日差しを受けて、まずは鯨の門を潜り本丸御玄関前に立ち止まると、視界に入ったのは木造建築の美しさと建物の大きさに身を引かれました。（鯨の門は1838年再建時のままで佐賀戦争時の銃弾痕跡がある。）



玄関の御式台から通路に入ると、ガラス越しに天保期の佐賀城本丸御殿の遺構を見ることが出来た。また、佐賀城の変遷と復元工事の工程、資材の調達、遺構周囲の取扱い等を詳しくパネルを通じて展示説明されており、木造の復元建物としては全国で最大級らしく、木造平屋建て（一部2階）で延べ面積が2500㎡の規模となっている。なかでも外御書院の大広間は320畳で、（一の間から四の間がある。）御世継ぎや公式の行事に使われ1000人の家来が集まったと記していた。現在では展示場とイベント等に使われている。

ここは、ちょっと時間がほしい感もあったが・・・

次の研修地は、多久市の多久聖廟（孔子を祀る）を見学した。彫刻や文様・瓦など孔子を祀る所には必ず麒麟の彫刻や絵画があるという。朱色の印象的な建物でした。



10月23日、快晴二日目の朝、ホテルの向かい側に朱塗りの竜宮門が・・・、説明では天平式楼門で東京駅の設計者と同じ辰野金吾博士の設計で大正4年（1915）の作とのこと。8:30ホテルを出発し研修地へ、伊万里から国民宿舎・いろは島（展望台）を経て呼子に到着。イカの活作り店で昼食となり、久しぶりに透き通って、弾力性があるコリコリしたイカに出会いました。

午後、名護屋城跡を見学。ここは岡城跡と同じ城跡のみで、秀吉の朝鮮出兵の拠点としていた城で（その前は垣添城）本丸跡は広くて天守台跡からの眺めはすばらしく遠くには壱岐・対馬も望見できるという。（この日は霞んで見えなかったが・・・）

研修地も予定の行程も終わりに近づき、疲れも体のどこかに感じるが、心に張り打つものがあった。今回の研修によって参加者全員の気持ちが更に息吹いた様に見えた。



15:00多久I.Cより高速にのり、19:30無事に竹田へ帰り着きました。二日間、晴天のなか各地での様々な出会いと、広く見聞が出来たことを大事として今後の生と活の資としたいと思います。

なお、バス到着後、皆さんの帰りの挨拶をすまして車に乗り込むと同時にラジオから新潟地震の速報を耳にして、「ええ～、これは大変な事態が」と驚きでただ一時呆然としました。あらためて被災者の方々が一日も早く、日常の生活に復帰されますように会員一同竹田から祈っております。



「大分県指定有形文化財長福寺本堂 保存修理工事について」報告(5)

日田市教育庁文化課 吉田 博嗣

今回は10月に開催された本堂の一般公開と11月に行われた上棟式について、報告いたします。

【一般公開】

昨年6月に引き続き、同本堂の一般公開が10月23・24日の両日で行われました。天気も晴天にも恵まれ、2日間で約350人の方が見学に訪れました。本堂前には、古瓦や彫刻類などを並べた展示コーナーを設け、内部には工事用の足場を利用したスペースにこれまでの工事経過写真や設計図面などを展示して、設計監理者の福島孝篤氏や棟梁の内山和昭氏から文化財としての保存修理工事の難しさや伝統的な技術・技法についてご説明がありました。

また、庫裏の中では本工事の指導者でもあります菅澤茂氏（文化財建造物保存修理主任技術者）より真宗寺院様式の特徴や意匠などをテーマにご講演をいただきました。

上棟式を11月に迎え、あと1年余りで保存修理工事は終了いたしますが、期間中、約1千名を超える見学者に訪れていただきました。関係機関のご協力には深く感謝を申し上げ、市では今後もこのような機会を設けて、文化財保護への啓発に努めてまいります。



—寛文当初の姿に復元された象鼻—

【上棟式】平成16年11月14日上棟

上棟式は、古来より伝えられている宮大工の伝統様式に則った「工匠の儀」として行われました。この儀式は、引き綱の儀と棟打ちの儀に大きく分けられ、前者では綱を参加者とともに引き、後者では棟に木材を打ち込むことで棟上げの儀式としています。「博士杭（はかせぐい）の儀」、「柱固めの儀」、「曳綱（ひきづな）の儀」、「棟打の儀」と続き、これらの前後に「工匠拝礼」があります。設計監理者や施工者が検知（けんち）、奉行（ぶぎょう）、振幣（ふりへい）、工匠（こうしょう）、白丁（はくちょう）にそれぞれ扮し、烏帽子や袴などの装束に身に包み、伝統的な工匠用具を用いて、古式に基づいた儀式が執り行われました。次にそれぞれの儀式について順に説明します。

《工匠拝礼》検知、奉行を先頭にそれぞれの役が祭壇前に並び、検知の号令の後に拝礼します。

《博士杭の儀》白丁は式具置場で奉行より木槌を受け取り、博士杭まで進み、もう1人の白丁は博士杭にまかされているサラシをほどき懐へ入れる。その後、工匠は白丁より木槌を受け取り、検知の合図で博士杭を3度打ちます。



—現場説明会風景—



—博士杭の儀—

《柱固めの儀》上棟に際して柱を四方から打ち固める儀式です。振幣、工匠、白丁が奉行より振幣棒、振幣台、木槌、当て木を受け取り、祭壇前中央、北東隅柱、南西隅柱へ向かう。検知の合図により、振幣の振幣棒を当てた音に続き、工匠が木槌で当て木をした柱を3度打った。その後、南東・北東隅柱で同じ儀式を繰り返します。

《曳綱の儀》参加者の協力を得て棟木を上を引き上ると言う意味の儀式です。振幣が振幣棒を受け取り祭壇前中央で待ち、参加者にあらかじめ引かれた綱を持ってもらう。検知の合図で3度の振幣の掛け声に続いて皆で掛け声を合わせて綱を引く格好をします。



—曳綱の儀—

《棟打の儀》前の儀式で持ち上げた棟木を打ち固める儀式です。白丁は奉行より木槌を受け取り、工匠は棟まで登る。振幣は振幣棒を受け取り、白丁は振幣台を受け取り、床に置き、合図を待つ。検知の合図により振幣の「千歳棟」、「万歳棟」、「永々棟」の各掛け声があり、その後、振幣台の音で工匠の掛け声と共に棟打ちを3回行います。



—棟打ちの儀—

《工匠拜礼》それぞれの役が検知、奉行を先頭に祭壇前に並び、検知の号令の後に拜礼します。



—餅まきの風景—

以上の流れで、儀式はつつがなく執り行われ、最後には恒例のもちまきをもって終了いたしました。

この儀式には、約130名の方々のご参加をいただきましたが、普段は見ることのできない伝統儀式は参加者にとって貴重な体験であったと思います。



中津島田本町通り・蛭子町通り 街なみ環境整備事業計画書

中津支部 梶田 康男



9月下旬にやっと計画書の作成が終わりました。士会員22名の方が、1月から9月まで、アンケート調査、それに基づく修景図の作成、他の街なみの視察、事業計画書やガイドラインの作成、又地元住民との交流や修景に対する説明会に積極的に参加し、地元の方の賛同を得ました。



建築会館にての修景図作業の様子です。



地元住民の方への修景図及びガイドラインの説明会

これから10年かけて地元の方々と街なみをつくっていかねば成りません。身の引き締まる思いです。

次は我々の手で土塀を作ろうと考えました。



上の写真は、会員で金谷地区の土塀の解体をしているところです。

我々で基礎石を組み、土をこねて土塀を作ります。おもしろそうです。

第19回豊の国木造建築賞

最優秀賞



作品データ

建設地 大分市
用途 住宅
建築主 徳丸 政次
設計者 (有)石井建築研究所
施工者 (株)幸建設
延面積 211.09㎡

作品のポイント

安政3年に建設された徳丸邸（旧帆足杏雨邸）は老朽化が進んでいた。再生工事は、全面揚屋工事を行いコンクリート基礎を新設し、軸組にも耐力壁を設け構造的な補強を行った。外観は修景基準に従い建設された当初の外観意匠に近づけている。間取りをできる限り建設当時の計画としているが、一部吹き抜けを設けたり開口部を新設し、通風や採光に配慮し現在の生活に合った再生計画としている。

優秀賞



作品データ

建設地 九重町
用途 痴呆症老人グループホーム
建築主 社会福祉法人大樹会 理事長 武田 大威
設計者 (株)メイ建築研究所
施工者 (株)竹中工務店九州支店
延面積 296.46㎡

作品のポイント

杉を中心とした馴染み深い構造材を選定したほか、上津江村で作られている津江杉を使ったLVL構造用合板（杉合板トラパネ／トライウッド）を、壁・床の内装の一部に、建具、家具にと多様な用途に活用している。

屋外から建物内中央部の高窓へと抜ける風の道をつくることで、軒先や坪庭の冷えた空気を建物内に取り込み、また、外壁、屋根内を外気が流される構造とすることで、暑さを防ぐ仕様としている。

優秀賞



作品データ

建設地 大分市
用途 住宅
建築主 牧 豊見
設計者 (株)ヴァイン設計工房
施工者 (株)ベネックホーム
延面積 153.44㎡

作品のポイント

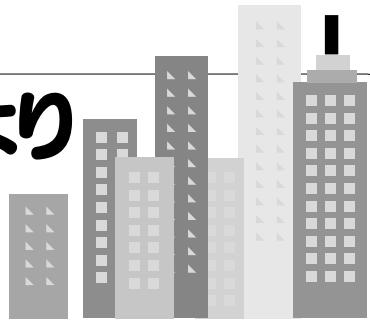
外観は道路側からの高さを低く抑え、圧迫感のないおらかなファサードになるようヒューマンスケールを意識し、中庭を中心に主要な居室をレイアウトしている。中庭に面する開口部は木製とし、またインテリアの床材（無垢板）と中庭の床デッキ材を同一材・同一高さとすることで各居室と中庭の空間的連続性を得ている。屋外の中庭空間を半屋内空間に近づけることで風・緑・鳥の声など小さな自然を屋内に取り込むことができた。



第19回豊の国木造建築賞受賞対象作品一覧

賞	建築主	建物所在地	用途	施工者	備考	
最優秀賞	徳丸 政次	大分市	住宅	大分市高砂町4-20 (有)石井建築研究所 代表取締役 石井鏡成 097-535-1871	別府市石垣東1-9-31 (株)幸建設 代表取締役 幸勝美 0977-23-6231	
優秀賞	牧 豊見	大分市	住宅	大分市今津留1-1-7 (株)ヴィン設計工房 代表取締役 小野敏昭 097-558-0888	大分市舞鶴町2-1-2 (株)ベネックホーム 代表取締役 097-537-8055	
	社会福祉法人 大樹会 理事長 武田 大威	九重町	痴呆症老人 グループ ホーム	福岡市東区名島4-39-12 (株)メイ建築研究所 代表取締役 岩野次雄 092-681-7887	福岡市中央区天神4-2-20 (株)竹中工務店九州支店 支店長 垣田英策 092-711-1211	
特別賞	矢野 健	津久見市	住宅	大分市高城西町1-20 野村一級建築設計事務所 野村春雄 097-553-0919	南海部郡弥生町大字山梨子246 染矢建築 染矢賢一 0972-46-0350	
協賛賞	内野 真也 (大分県建設業協会)	大分市	住宅	大分市長浜町1-7-3 608号 (有)山口隆史設計室 山口隆史 097-534-9177	大分市中島西3-5-1 (株)佐伯建設 代表取締役社長 川崎裕一 097-536-1530	緑化推進賞
	藤原 武 (大分県建築士会)	日出町	住宅	大分市松ヶ丘72-14 一級建築士事務所 G アトリエ 後藤年則 097-542-4603	別府市大字鶴見458番地の11(火売4組) (株)安部信工業 安部孔一 0977-66-6000	シンプル デザイン賞
	足立 仁 (大分県木造住宅事業協会)	臼杵市	住宅	大分市大字関園527-2 三浦住宅設計 三浦淳一 097-527-2968	大分市大字関園527-2 三浦住宅設計 三浦淳一 097-527-2968	リフォーム賞
	豊福 浩 (大分県木材協同組合連合会)	日田市	住宅	日田市清岸寺町1061-3 アス力建築総合研究所 橋原浩郎 0973-24-2772	日田市亀川町354-6 (株)千原工務店 千原誠一郎 0973-24-3289	企画賞
	朝地町長 羽田野昭太郎 (大分県森林組合連合会)	朝地町	小・中学 校	福岡市博多区博多駅南1-2-15 (株)佐藤総合計画九州事務所 理事九州事務所長 嶋田秀雄 092-451-2729	福岡市中央区警固1-12-11 五洋・梅林・友岡共同企業体 092-781-5152	ユニーク 構造賞
	廣瀬 善己 (大分県住宅供給公社)	千歳村	住宅	大分市上野ヶ丘西23-14 川野雄二住宅設計室 川野雄二 097-546-6594	大分市中島西3-8-15 東洋建設(株) 代表取締役 三浦慎次郎 097-536-6610	県産材活用賞
	古城 智浩 (大分県建設合同労働組合)	日田市	住宅	日田市田島町128-10 GO.建築設計室 後藤憲行 0973-24-4007	日田市上手町264-4 (有)双美工務店 0973-22-7423	自然素材賞
	安波 利一 (大分県職業能力開発協会)	別府市	展示場 兼用住宅	松本市島立1095 (株)降幡建築設計事務所 所長 降幡廣信 0263-48-2222	臼杵市市浜中通り651-2 (株)佐々木工務店 代表取締役社長 佐藤利正 0972-63-1558	景観保存賞
	園田 正 (大分県建設組合連合会)	宇佐市	住宅	大分市錦町3-8-1 (株)大分住宅研究室 代表取締役 芳山憲祐 097-532-1885	杵築市大字中209番地 (株)高原建設 代表取締役 高原勝太郎 0978-62-4545	古材活用賞
	(有)大基興産 代表取締役 神保 治夫 (大分県建築設計事務所協会)	大分市	公民館	福岡市博多区神屋町9-20-306 小笹建築設計事務所 小笹幸彦 092-291-6172	別府市大字南立石426番地の1 ミナモト建設(株) 代表取締役 小野源太郎 0977-25-6010	環境共生賞
江河 セツ子 (大分県木材商業協同組合)	日田市	住宅	宇佐市大字城井2006番地 (株)江河工務店一級建築士事務所 江河俊優 0978-32-0254	宇佐市大字城井2006番地 (株)江河工務店 代表取締役 江河俊優 0978-32-0254	健康住宅賞	
奨励賞	伊達 英寿	大分市	住宅	大分市上宗方1996-1 K-SOHO 202 アトリエ・ラッツ 代表 古後信二 097-542-7430	大野郡三重町大字内田3588-1 首藤工務店(有) 代表取締役社長 首藤建平 0974-22-3323	
	二宮 一也	庄内町	住宅	別府市天満町8-15 ETO空間アトリエ一級建築士事務所 代表 衛藤三志 0977-21-3616	別府市亀川東町6-8 吉野工業(株) 代表取締役 吉野いずみ 0977-67-5287	

行政だより



大分県土木建築部 施設整備課 辰本 健治 おおいたエコ建築推進事業

1. 事業の背景

社会経済活動の拡大に伴う資源・エネルギーの大量消費は、地球温暖化をはじめとするオゾン層の破壊や酸性雨など様々な地球環境問題を引き起こしており、世界各国でその対策と実施が課題となっています。我が国においては、平成9年「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法（新エネ法）」の制定や平成10年「京都議定書」における温室効果ガスの総排出量抑制などを定め、公共施設等への率先導入、地域住民への普及啓発機能が急務となっています。

大分県においても地球規模の環境問題への対応を重要な課題として、“ISO 14001 環境マネジメントシステム”や“ごみゼロおおいた推進運動”など、地域から地球環境保全に向けて行動する「環境立県」を目指しています。また、県内のNPO認証法人のうち3分の1が環境保全分野で活動をしており、県民の環境への関心の高まりを示しています。

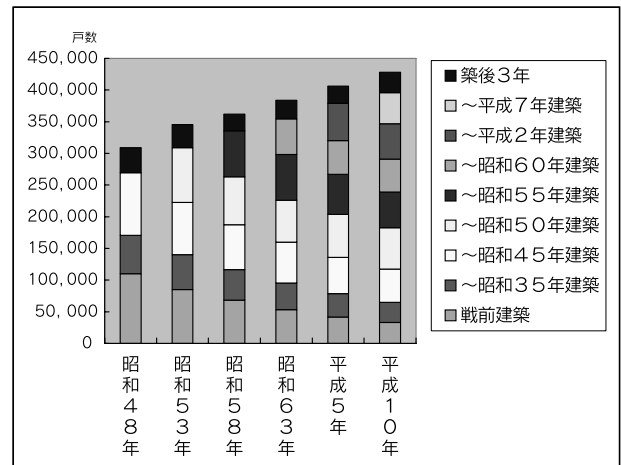
2. 事業の概要

大分県の気候・風土に適合した『おおいたエコ建築設計指針』を策定し、環境配慮型建築を計画・設計する際の考慮すべき基本事項、実施するための手法及び簡易な評価方法を示し、県民への普及を図ります。

特に住宅においては、築後30年以上を経過し、リフォーム対象として考えられるものが6割以上を占めており、これらの改修の際にも、指針を活用してもらいたいと考えています。

3. 環境配慮型建築とは

気候、風土は、建築基準法のように全国一律ではありません。温故知新の教えに基づき大分の気候・風土に最適の、伝統的な在来木造を再評価したパッシブな省エネと、屋上緑化などの最新技術を取り入れたアクティブな省エネの混合住宅が、現代の環境配慮型建築と呼べるのではないのでしょうか。



大分県の築年数別住戸ストック数の変遷

4. 指針の概要

①自然を活用する

太陽光、自然通風、雨水利用、緑化等、自然を利用・活用した省エネ効果をまとめます。

②地球資源にやさしく

自然素材の活用や在来木造住宅の利点、木材利用と自然循環、高耐久性とその工法などリサイクルを含む将来に向けた建築物のあり方をまとめます。

③地域に根ざした知恵

地域の気候風土にあった工夫と工法を紹介します。

④省エネ・新エネ活用

太陽熱・太陽光利用を中心とした新エネについて、活用方法を整理します。

5. 直接的な事業効果

地球環境というマクロ的視点で考えると、温室効果ガスの90%以上を占める二酸化炭素排出量の約3分の1が建築関連分野であるとされており、大分県独自の設計指針を策定し環境に配慮した手法や大分県の環境への取り組みを具体的に示すことで、建築領域での地球温暖化防止対策の推進を図ることができます。

実際に指針を利用者というミクロ的視点で見ると、

① 建築主は計画段階で、省エネの工夫や効果の比較検討が可能となります。

② 運用段階では、省エネ実践の参考となります。

③ 建築技術者は、「おおいたエコ建築」の手法を容易に設計に利用できます。

④ 建築主と建築技術者の間のコミュニケーションツールとしても利用できます。

この結果、より多くの県民がより深く環境問題を意識し、安全で住み良い快適な環境作りが期待できます。

6. 「おおいたエコ建築設計指針」の作成について

おおいたエコ建築設計指針の作成は、大分県建築士会へ委託し、作成をおこなっています。特に住宅編においては、ディテールを意識した指針の作成を考えています。県内各地域の気候・風土・伝統などの特性を活かした知恵や工夫が見られる住宅を探すところから始まり、調査、野帳の作成をもとに、緑化や通風などの観点から各住宅を分類し、事例集としてまとめています。それらをもとに設計上で活用できる手法をとりあげながら、指針を作成しています。一般建築編は、主に県が中心となり作成作業をおこなっています。建物の長寿命化や日照制御と太陽熱といった新エネルギーの利用などより複合的な大きな軸でまとめています。

最終的には指針及び一般配布用のパンフレットとHP上での公開を見据え、来年2月の完成を目指しております。

7. 「おおいたエコ建築設計指針」の一部紹介

①緑化について

植栽は、落葉樹を植えることで、夏は日射を遮り、冬は日差しを取り込むことができます。また、万葉集にあるような日本古来の在来種を推薦します。屋上や壁面の緑化は、助成制度を利用でき、夏季の断熱、冬季の保温、騒音の低減、ヒートアイランド軽減、癒しなど様々な効果を得ることができます。

②雨水の利用

雨水をタンクにためることで、貴重な水資源となります。打ち水や庭の水まき、洗車、水洗トイレなどに活用できます。設置工事も比較的簡易におこなうことができます。

③伝統的木造建築の知恵に学ぶ

木材は、調湿性があり、自然のエアコンとも呼べる役目を持っています。日本の風土に適した素材です。軒・庇の傾斜や深さは夏の日差しを遮り、冬の日差しが深く入りこむように角度が計算されており、雨を防ぎながら適度な風も取り込めるように考えられています。欄間は意匠だけでなく、通風や採光といった機能も有しています。障子や襖は、気候に応じて開閉や取り外しが可能で、建物内部を大空間としても小空間としても利用可能としてくれます。縁側は、二重閉まりとなり、空気層を作り出し、住環境の調整として、また憩いの空間として演出できます。

あげればキリがありませんが、伝統的木造建築から学べる知恵は非常に多く、現代の技術と融合させることで様々な効果を得ることができます。

8. 今後の展開

平成17年度は、エコ建築設計指針の普及を目指して、県内各地で“押しかけ講座”の開催を予定しています。住宅の新築・増改築を必要としている県民の方々を主な対象として、県内各地に職員が押しかけ、エコ建築を学んでいただこうと考えています。また、今年度建築士会で調査した物件の中から実際の住宅の真夏と真冬の体験見学ツアーも計画しています。さらに、我が家のエコ自慢としまして、自宅のエコな工夫や住まい方などを募集することも検討しています。

お問い合わせ先

大分県 土木建築部 施設整備課
企画調査担当まで

TEL 097-536-1111
内線 4707・4708
FAX 097-538-5716

**編集委員会では
みなさんの投稿を
待っています。**

絵・スケッチ・CG・詩・短歌・俳句・随想なんでも結構です。あなたの知られざる才や技を御披露いただきたいのです。

各支部の編集委員までおとどけください。本部に直接送ってくださってもかまいません。

よろしくお願い致します。

第25回 建築士会ソフトボール 大分県大会

大分支部 中村 勝
さまざまな理由で延期になっていた第25回建築士会ソフトボール大分県大会が、11月27日（土）に大分市西部スポーツ交流ひろばにてようやく開催されました。

今年は県内各支部より10チームの参加となりました。



今回は、開催時期が急遽変更になったりしたこと等から例年よりはやや少な目の参加チームとなりましたが、各チーム優勝を狙っての激しい戦いが、繰り広げられました。

11月とあって朝はかなり冷え込みましたが、みな日ごろ動かしていない体を大分支部の牧野貴土さんのラジオ体操でほぐした後、予選リーグが始まるとジャンパーを脱ぎ捨てて額に汗を掻きながら一生懸命にボールを追いかけていました。

予選リーグは、三つのグループに分かれそれぞれのグループから上位2チームが決勝トーナメントへ出場出来るという試合方法になっていました。

年に一度しかソフトボールをしないという人が大半で、予選リーグでは予想もしないようなエラーや珍プレーが続出し、足をつったりする選手もあちらこちらで見かけられましたが、午後からの決勝トーナメントでは、試合を終えたチームや観客席から拍手が出るほどのファインプレーが随所にみられ、試合自体も非常に引き締まったものになりました。



試合結果は、決勝戦で実力的には今大会No.1と思われた佐伯支部チームを最終回の劇的な逆転さよならゲームで破った、建設Aチームが優勝しました。

準優勝は佐伯支部チーム、第3位は別府支部チーム、第4位は竹田支部チームでした。

また、昼休みのアトラクションの時間には、グループ・バンブーダンスというリズムに合わせて、2本の竹の間を飛ぶというゲームが催されました。みな見るのもやるのも初めてと言う人ばかりでしたが、いざゲームがスタートするとそれなりにサマになって、ぴよんぴよんと竹を飛び越えていました。



今回の大会は前日までの天気予報では、雨もようということでしたが大会当日は、雲一つ無い晴天に恵まれて無事開催及び、終了できた事は、各支部の皆様がたの、日ごろの行いの良さからではないでしょうか。また当日までの準備、運営をしていただいた役員の方々、大変お疲れ様でした。



コメント

今大会は私のいる建設Aチームがソフトボール大会アトラクションのバンブーダンスと両方で優勝して非常に有意義な一日となりました。次の26回大会も連覇を目指し、参加する事を楽しみにしています。



事務局だより

【行事報告】

■サマーセミナーin宇佐

日時 平成16年9月11日
場所 宇佐市
参加 111名

■第47回建築士会全国大会（和歌山大会）

日時 平成16年10月21日～22日
場所 和歌山市
参加 35名

■第25回建築士会ソフトボール大分県大会

日時 平成16年11月27日
場所 大分市西部スポーツ交流ひろば
参加 10チーム

【会議報告】

■編集作業

日時 平成16年8月10日
場所 事務局
出席 2名
概要 「建築士大分」No.91の編集作業

■専攻建築士制度打ち合わせ

日時 平成16年8月17日
場所 事務局
出席 3名
概要 認定評議会の事前打ち合わせ

■編集作業

日時 平成16年8月19日
場所 事務局
出席 3名
概要 「建築士大分」No.91の編集作業

■編集作業

日時 平成16年8月24日
場所 事務局
出席 3名
概要 「建築士大分」No.91の編集作業

■建築士会・建築設計事務所協会合同三役会

日時 平成16年8月27日
場所 事務局
出席 6名
概要 ①知事表彰及び勲章・褒章者の推薦について
②住まい・まちづくり活動のシンポジウム開催について
③事務所協会全国大会の大分開催について

■建築士会事務局職員研修会

日時 平成16年10月15日
場所 別府市
出席 役員 4名、職員13名
概要 ①CPD・専攻建築士制度事務取り扱いについて
②意見交換会

■「エコ建築」ワーキンググループ発表会

日時 平成16年10月29日
場所 コンパルホール
出席 23名
概要 各支部より調査物件概要説明

■第3回専攻建築士制度特別委員会

日時 平成16年11月2日
場所 事務局
出席 9名
概要 ①連合会認定評議会報告
②平成16年度申請受付について

■編集会議

日時 平成16年11月4日
場所 コンパルホール
出席 11名
概要 「建築士大分」No.92の編集方針について

■三役会議

日時 平成16年11月12日
場所 事務局
出席 8名
概要 ①支部長・理事合同協議会の議題について
②全国大会連合会長表彰候補者の推薦について

■支部長・理事合同協議会

日時 平成16年11月26日
場所 別府市
出席 33名
概要 ①各委員会報告
②青年部活動状況について
③女性部活動状況について 他

■編集作業

日時 平成16年11月30日
場所 事務局
出席 4名
概要 「建築士大分」No.92の編集作業

【建築士会連合会関係】

■第1回専攻建築士制度推進特別委員会

日時 平成16年8月5日
場所 東京都
出席 岩瀬会長
概要 ①各県士会の進捗状況
②他団体との交渉状況
③各ブロック又は建築士会の状況報告
④APECアーキテクトについて

■総務企画委員会

日時 平成16年8月16日
場所 東京都
出席 岩瀬会長
概要 全国大会開催のアンケート調査依頼について

■第3回専攻建築士認定評議会

日時 平成16年8月23日
場所 東京都
出席 岩瀬会長
概要 4建築士会審査経過並びに結果説明

■理事・士会長合同会議

日時 平成16年10月21日
場所 和歌山市
出席 岩瀬会長
概要 ①専攻建築士制度普及計画(案)について
②第48回建築士会全国大会(愛知大会)における連合会長表彰及び伝統的技能者表彰候補者の推薦について
③後援名義等の使用許可について 他

■第2回専攻建築士制度推進特別委員会

日時 平成16年11月15日
場所 東京都
出席 岩瀬会長

【九州ブロック会関係】

■CPD・専攻建築士制度担当者情報交換会

日時 平成16年8月6日
場所 福岡市
出席 岩瀬会長、渡辺青年部会長、後藤副部会長
概要 ①各県士会の取り組み状況について
②大分県士会より先行実施の説明

■第1回会長会議

日時 平成16年11月19日
場所 福岡市
出席 岩瀬会長、許斐事務局長
概要 ①規約の改正について
②事務局長会議の報告 他

【建築士試験業務関係】

■二級建築士「設計製図」試験

日時 平成16年9月26日
場所 日本文理大学
出席 監理員 10名、補助員 3名
概要 受験者 二級 168名

■一級、木造建築士「設計製図」試験

日時 平成16年10月10日
場所 日本文理大学
出席 監理員 8名、補助員 3名
概要 受験者 一級 97名
木造 0名

■建築士試験業務反省会

日時 平成16年10月27日
場所 大分市
出席 22名
概要 ①16年度建築士試験実施結果報告
②試験実施に係る問題点と反省について

【その他会議関係】

■平成16年度木と暮らしのフェア

実行委員会・幹事会合同会議

日時 平成16年8月18日
場所 県庁舎
出席 芳山副会長
概要 ①農林水産祭について
②農林水産祭(林業部門)の組織(案)について

■平成16年度第1回農林水産祭林業部門運営委員会

日時 平成16年8月23日
場所 県庁舎
出席 芳山副会長
概要 ①農林水産祭の共通部分実施計画(案)について
②農林水産祭(林業部門)の実実施計画(案)について

■第6回「ユニットケア全国セミナー」第6回実行委員会

日時 平成16年9月24日
場所 ビーコンプラザ
出席 芳山副会長
概要 ①各部門責任者確認
②スケジュール、準備作業の確認 他

■おおいた・福祉のまちづくり賞第1回審査委員会

日時 平成16年10月29日
場所 大分総合庁舎
出席 芳山副会長
概要 ①第一次審査(書面審査)について
②今後のスケジュールについて

■おおいた・福祉のまちづくり賞現地調査

日時 平成16年11月15日
出席 芳山副会長
概要 第一次審査(書面審査)で選定された施設の現地調査

■おおいた・福祉のまちづくり賞第2回審査委員会

日時 平成16年11月26日
場所 大分総合庁舎
出席 芳山副会長
概要 受賞者の選考

新 会 員 紹 介 (H.16年9月～12月入会)

支部	氏 名	生年	級別	登録番号	〒	住 所	電 話	勤務先(☎)
別 府	今橋 周作	S50	1	298529	874-0836	別府市東荘園3-1	(0977) 22-8243	周設計工房 (0977)24-3923
大 分	久保田 誠	S42	1	249223	870-0835	大分市上野丘9-32上野の杜ハイムA201	(097) 545-1810	久保田誠一級建築士事務所 (097)545-1810
佐 伯	酒井 英樹	S31	2	—	876-0835	佐伯市鶴岡町3-17-6カヌー鶴望102号	(0972) 20-0320	谷川建設工業㈱ (0972)22-2601
竹 田	後藤新一郎	S57	2	6883	879-6122	直入郡荻町大字柏原1446-4	(0974) 68-2440	後藤工業 (0974)68-2440
中 津	筒井 太一	S49	2	福岡県 25089	828-0035	豊前市大字市丸43-1 辛島住宅5号	(0979) 82-2116	—

指定講習会開催のお知らせ

1. 講習会名称 「建築士のための指定講習会」
2. 主 催 (社)大分県建築士会・(社)日本建築士会連合会
3. 日 時 平成17年2月14日(月) 9:25～16:45
4. 会 場 (財)大分県教育会館 多目的ホール
大分市大字下郡496番地の38
5. 受講料 14,000円
但し、本会会員11,000円(3,000円は建築士会で負担します。
テキスト代、受講修了証、登録料を含む。)

6. 時間割・内容・講師

時 間 割	内 容	講 師
9:25～9:30	あ い さ つ	社団法人 大分建築士会 会長 岩瀬八洲夫氏
法・制度の知識編		
9:30～10:00	I. 法改正の動向 1. 最近の法改正について 2. 住宅の品質確保の促進等に関する法律 3. 建築士及び建築士事務所の処分基準	大分県土木建築部建築住宅課 参 事 幸 孝三氏
10:00～11:00	II. 契約への対処 1. 建築士の契約に関する法的知識 2. 契約約款と紛争処理	弁 護 士 千野 博之氏
技術の知識編		
11:00～11:45	I. 仕様書および見積りへの対処 1. 標準仕様書・特記仕様書 2. 木造戸建住宅の仕様書 3. コストプランニングと見積り	株式会社 大分住宅研究室 代表取締役 芳山 憲祐氏
11:45～12:00	「受講者カード」記入説明	
12:00～12:50	昼 食 ・ 休 憩	
技術の知識編		
12:50～13:35	II. 欠陥建物を造らないために 1. 欠陥住宅(木造戸建住宅編) 2. 欠陥マンションの課題	株式会社 大分住宅研究室 代表取締役 芳山 憲祐氏
技術の知識編		
13:35～14:35	III. 室内環境 1. 快適な室内環境の計画 2. 光/視環境 3. 音環境 4. 室内気候を重視した住宅設計 5. ホルムアルデヒドとVOC 6. ダニとカビ	大分大学工学部福祉環境工学科 建築コース 教 授 大鶴 徹氏
14:35～14:45	休 憩	
技術の知識編		
14:45～15:45	IV. 地震安全性 1. 近年の地震被害の傾向 2. マンションの耐震設計 3. 耐震構造と免震構造・制振構造 4. 設計・加工・施工段階での耐震性に対する責任 5. 非構造部材の耐震性 6. 設備設計と耐震性 7. 耐震診断と耐震補強	大分大学工学部福祉環境工学科 建築コース 教 授 菊池 健児氏
15:45～16:45	V. 木造建築 1. 木造建築の現況と将来 2. 既存戸建て木造住宅の耐震性の評価 3. 木造建築の改修	大分大学工学部福祉環境工学科 建築コース 教 授 井上 正文氏

今年こそは
舞いあがりたいもうです
T.O.

あけまして
おめでたうございませう
今年もよろしくお願いいたします
T.K.



あけましておめでたうございませう
今年も皆様のおかげで
良い年でありまふように..
E.H.

今年もよろしくお願い申し上げます。
T.M.

広報委員

担当副会長	佐伯	志賀	隆保
常務理事	大分	幸崎	孝三
委 員	大分	宮野	博男
"	竹田	川野	和男
"	別府	原	精一郎
"	大分	牛嶋	義文
"	臼杵	笠木	忠昭
"	臼杵	板井	登喜雄
"	佐伯	井上	一則
"	三重	岡部	達巳
"	日田	日高	淳一
"	中津	是本	正昭

編集委員

編 集 委 員	高田	成重	憲一
"	国東	菊本	軍治
"	別府	工藤	圭介
"	大分	山田	由二
"	大分	佐藤	安典
"	大分	坪井	敬行
"	大分	飯倉	尚之
"	大分	伊東	幸子
"	大分	丸茂	憲子
"	佐賀	河津	幸治
"	臼杵	笠木	忠昭
"	臼杵	久野	悦子
"	津久見	中津留	幸正
"	佐伯	安部	秀久
"	佐伯	中田	智佐美
"	三重	阿南	英彦
"	竹田	野村	忠
"	玖珠	後藤	喜美男
"	日田	秋	和夫
"	中津	小野	みゆき
"	宇佐	椋田	康一

建築士大分 2005.1 No.92 (非売品)

平成16年 12月26日 印刷

平成17年 1月 1日 発行

編集/発行所
社団法人

大分県建築士会
〒870-0022
大分市大手町2丁目2-7田原ビル2F
TEL 097-532-6607
FAX 097-532-6635

印刷所/いづみ印刷株式会社 大分市大字下郡字丁畑3119-1 TEL (097) 569-3741

士 楽 豊

式 会 会

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高 田	879-0605	豊後高田市大字御玉199	0978-24-0418
国 東	873-0503	東国東郡国東町安国寺718	0978-72-2887
別 府	874-0845	別府市大字鶴見字角田3220-3 別府建築士事務所会館	0977-67-4488
本部・大分	870-0022	大分市大手町2-2-7 田原ビル2F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	北海部郡佐賀関町藤生 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼 杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2458	津久見市入船西町21-1 小代築炉工業株内	0972-82-4155
佐 伯	876-0813	佐伯市長島町1-3-11	0972-23-6099
三 重	879-7131	大野郡三重町大字市場2区	0974-22-6606
竹 田	878-0026	竹田市大字飛田川1618-6	0974-62-3711
玖 珠	879-4631	玖珠郡九重町大字恵良952-6 和興設計一級建築士事務所内	09737-6-2458
日 田	877-0025	日田市田島1-7-43-1F 102 (有)藤原設計内	0973-24-6022
中 津	871-0024	中津市中央町1-5-24 中津建築会館	0979-24-3597
宇 佐	879-0454	宇佐市大字法鏡寺290-1 服部第3ビル102号	0978-33-3395
本 部	http://www.oita-shikai.or.jp/		
別 府 支 部	http://www.beppu-yukemuri.com		
大 分 支 部	http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/		
佐 賀 関 支 部	http://www.d-b.ne.jp/sekisibu/		
臼 杵 支 部	http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/syoukai.htm		
津 久 見 支 部	http://www.bungo.or.jp/t-shikai/		
佐 伯 支 部	http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/		
日 田 支 部	http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm		
中 津 支 部	http://www6.ocn.ne.jp/~ken-kai/shikai/01top/index.htm		
宇 佐 支 部	http://www.d-b.ne.jp/usasikai/		

会 員 増 強 に ご 協 力 を !

~ 会 員 二 人 で、一 人 の 入 会 勧 誘 を ~
目 標 3,000 人 突 破



社 団 法 人 大 分 県 建 築 士 会